地質学雑誌　第127巻　第10号（通巻1513号）付録　令和3年10月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.24 No.10 October 2021

一般社団法人日本地質学会
The Geological Society of Japan

理 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2022 年総会

会長（代表理事） 磯﨑行雄（東京大学）

副会長 佐々木 和彦（応用地質（株））
平田大二（神奈川県立生命の星・地球博）

常務理事 中澤　努（産業技術総合研究所）
副常務理事 岡田　誠（茨城大学）
執行理事 ウォリス サイモン（東京大学）
緒方信一（中央開発（株））
大藤　茂（富山大学）
狩野彰宏（東京大学）
亀高正男（(株) ダイヤコンサルタント）
小宮　剛（東京大学）
坂口有人（山口大学）
高嶋礼詩（東北大学）
辻森　樹（東北大学）
星　博幸（愛知教育大）
松田達生（工学気象研究所）
矢部　淳（国立科学博）

理　事 上松佐知子（筑波大学）
芦　寿一郎（東京大学）
天野一男（東京大学）
安藤寿男（茨城大学）
内野隆之（産総研）
尾上哲治（九州大学）
笠間友博（箱根ジオミュージアム）
亀尾浩司（千葉大学）
亀田　純（北海道大学）
川端清司（大阪市立自然史博）
北村有迅（鹿児島大学）
清川昌一（九州大学）
後藤和久（東京大学）
小松原純子（産総研）
齋藤　眞（産総研）
杉田律子（科学警察研）
竹下　徹（北海道大学）
内藤一樹（産総研）
納谷友規（産総研）
奈良正和（高知大学）
西　弘嗣（東北大学）
根本直樹（弘前大学）
野田　篤（産総研）
早坂康隆（広島大学）
藤井正博（応用地質（株））
細矢卓志（中央開発（株））
保柳康一（信州大学）
松田博貴（熊本大学）
三田村宗樹（大阪市大学）
道林克禎（名古屋大学）
矢島道子（東京都立大学）
山口飛鳥（東京大学大気海洋研）

監 事

任期：2020 年 5 月 23 日～ 2024 年総会

岩部良子（応用地質（株））
山本正司（山本司法書士事務所）

一般社団法人日本地質学会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町 2-8-15　井桁ビル
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156（振替口座　00140-8-28067）
e-mail: main@geosociety.jp　ホームページ htttp://geosociety.jp

日本地質学会*News*

Vol.24 No.10 October 2021

The Geological Society of Japan *News*
一般社団法人日本地質学会
〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15　井桁ビル ６F
編集委員長　小宮　剛
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

Contents

公募……2
伊豆大島ジオパーク専門員の募集/弘前大学教育研究院自然科学系安全システム工学領域教員（地球環境化学分野助教）公募/九州大学基幹教育院長准教授もしくは講師の公募

紹介…3
福島第一原子力発電所の地質・地下水問題―原発事故後10年の現状と課題―　福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ編著（志岐常正）

地質学露頭紹介……4
中央構造線活断層系川上断層の露頭（窪田安打)/変形構造から読み解くテクトニクス（竹下　徹）/関東山地北部秩父帯の褶曲と変成縞（清水以知子）/蛇紋岩メランジュの蛇紋岩露頭（辻森 樹）/Wawaの縞状鉄鉱層（大久保英彦)/アイスランドの溶岩断面（星　博幸）/香川県荘内半島に見られる花崗岩境界（下岡和也）/河川堆積物に見られるHCSのような構造（小松原純子）

京都大学の地球科学分野での研究不正問題について（会長　磯崎行雄）……8

CALENDAR……9

院生コーナー……10
研究室紹介：千葉大学理学部地球科学科：岩石鉱物学研究室（高見澤　駿・青島優生）

支部コーナー……11
第21回四国支部 総会・講演会

2022年度の会費払込について/災害に関連した会費の特別措置のお知らせ……12

学部学生・院生（研究生）の「割引申請会費」について……13

学会記事……15
2021年度第1 ～ 3回理事会議事録，2021年度第1 ～ 4回執行理事会議事録

表紙紹介……22
第12回惑星地球フォトコンテスト：ジオ鉄賞「古の海洋堆積物から見上げて」（藤岡比呂志）

巻末　会費口座振替依頼書

日本地質学会2022年度代議員立候補届

受付締切：11月18日（木）18時必着

詳しくは，ニュース誌9月号もしくは，学会HPを参照してください．

2022年度学会各賞候補者募集

応募締切：12月1日（水）必着

詳しくは，ニュース誌9月号もしくは，学会HPを参照してください．

新型コロナウィルス感染拡大防止のため，**学会事務局は現在も出勤日数・人数を調整しながらテレワークを実施しております．**営業時間は通常通り，電話対応も再開しておりますが，事務局へのご連絡・お問い合わせはできるだけメールでお送りください．ご理解・ご協力のほどよろしくお願い致します．

事務局営業カレンダー　営業時間：9:30-18:00　お休み

10月 October

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30

11月 November

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都豊島区東池袋4－41－24

公募

教員・職員公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

伊豆大島ジオパーク専門員の募集

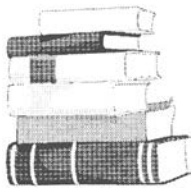
伊豆大島火山博物館を観光客にも，地域の方にも親しまれ愛される伊豆大島ジオパークの拠点施設として整備するため，令和6年リニューアルオープンを目指し，主担当となる地域おこし協力隊員を募集します．
募集人員：ジオパーク専門員（大島町任期付職員）１名　※地域おこし協力隊制度を活用
募集期限：2021年12月24日（金）※申込のあった方から順次選考し，採用の合否を決定するため，採用が決定した時点で受付を中止とします．申込前に必ずお問合せください．
任期：2022年4月1日~2023年3月31日，１年間（採用日から３年間を限度に任期を更新する場合あり）
職務内容：主にジオパーク拠点施設整備を目指し，火山博物館リニューアルオープンに係る事業推進を図ることを担当業務とする．
待遇等：
・休日：原則として土日・祝日・年末年始
・休暇：年次休暇（採用月より付与，2年目以降年20日）特別休暇（産前，産後，介護，育児，結婚，夏季，忌引等）
・手当：期末・勤勉手当，住居手当，扶養手当，通勤手当，超過勤務手当
・社会保険：健康保険，厚生年金，介護保険
選考方法：1次選考：書類審査　2次選考：面接審査
詳細URL：https://town.oshima.tokyo.jp/soshiki/soumu/saiyo2021101103.html
問い合せ先：
東京都大島町役場総務課
TEL:04992-2-1443 / FAX:04992-2-1371

弘前大学教育研究院自然科学系安全システム工学領域教員（地球環境化学分野助教）公募

募集職種・人員：助教1名
任期：任期なし
所属：教育研究院自然科学系 安全システム工学領域（専任担当組織：理工学研究科（理工学部地球環境防災学科併任））
専門分野：地球環境化学分野
担当科目：
・理工学部：環境地球化学実験，環境地球化学，基礎化学実験，卒業研究など
・大学院理工学研究科：地球環境化学関連の特論など
・教養教育科目：スタディスキル導入科目，自然･科学科目群，キャリア教育など
採用予定時期：令和４年４月１日（以降のできるだけ早い時期）
待遇：
(1) 給与については，国立大学法人弘前大学職員給与規程が適用となります。
(2) 労働条件については，弘前大学の定める規程等によります。
応募資格：次の要件をすべて満たす者
(1) 博士の学位を有する方（着任までに取得見込みの方）
(2) 大学院博士前期課程において教育研究指導ができる方
(3) 外国人の場合には，研究指導と学内外の諸業務の遂行が可能な日本語運用能力を有する方
応募方法：書類の郵送または WEB 応募
応募期限：令和４年１月14日（金）（必着）
WEB 応募の場合も同日を締め切りとします．
問い合わせ先：
〒036-8561 青森県弘前市文京町３番地
弘前大学大学院理工学研究科 総務グループ（総務担当）
電話：(0172) 39-3503，FAX：(0172) 39-3513
E-mail：jm3505@hirosaki-u.ac.jp

九州大学基幹教育院長准教授もしくは講師の公募

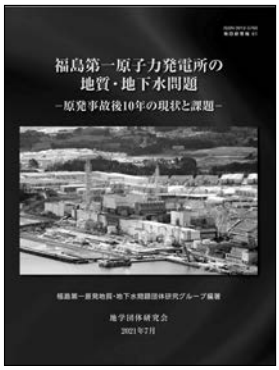
職名・人員：准教授もしくは講師 1 名（任期なし）
所属：九州大学基幹教育院
職務：
(1) 地球科学もしくは物理学に関する教育・研究
(2) 基幹教育院が企画運営する全学的な教育活動講義、実験実習、教育手法、および、教育カリキュラムの開発、実施特に、基幹教育教養系講義科目「地球と宇宙の科学」の講義担当
(3) 学府、学部等の教育・研究に関する活動
応募条件：次の各号の条件を満たす者
(1) 博士の学位を有する者
(2) 地球科学もしくは物理学に関する教育・研究で優れた業績を有し、今後のさらなる展開が期待できる者
(3) 基幹教育で実施する授業、アクティブ・ラーナー育成のための組織的な取り組み、並びに自らの専門分野における大学院教育の授業が担当できる者
着任時期：2022年4月1日
応募締切：
【応募書類締切】2021年12月9日（木）17時までに必着のこと
【電子媒体提出希望連絡締切】2021年12月8日（水）15時まで
（学務部 基幹教育・共創学部課 運営支援係）
E-mail：koubo@artsci.kyushu-u.ac.jp
書類提出先及び問い合わせ先
提出先：
〒819-0395 福岡市西区元岡 744
九州大学 基幹教育院 院長 谷口 説男
（学務部 基幹教育・共創学部課 運営支援係）
問い合わせ先：
九州大学 基幹教育院 自然科学実験系部門 教授 田村茂彦
E-mail：stamura@artsci.kyushu-u.ac.jp
提出書類，選考方法等公募の詳細は，は下記をご覧ください．
http://kobo.jimu.kyushu-u.ac.jp/pdf/20211004161238.pdf



紹　介

福島第一原子力発電所の地質・地下水問題
―原発事故後10年の現状と課題―

福島第一原発地質・地下水問題団体研究グループ編著



地団研専報61，地学団体研究会2021年７月31日刊行，変形A4版，本文228頁（内カラー：89頁），口絵：11頁，
ISSN 0912-5760.

福島第一原発事故から10年が経ったが，いまだデブリの取り出しも始められず，廃炉作業は困難を極め，工程の見通しが立たない状態にある．地下水や雨水が，このデブリに触れて，汚染水が発生し続けている．東京電力株式会社（以下：東電）や国は，地下水バイパスや凍土壁を設置して地下水流入を止めようとしたが，うまくいかない．そこでついに，汚染水の海洋投棄を決定した．筆者のセンスで見れば，これは言わば“禁じ手”であり，原理的には人類に対する裏切り行為である．本当に他に手段はないのかを問いたい者は少なくないだろう．地質学徒である筆者にとっては，これは現地の地質と地下水の条件，状況の問題である．そう思っているところに，この報告がだされた．時宜を得ている．

地学団体研究会（略称：地団研）では，有志メンバーが，原発事故発生直後から各地で関係問題の調査を行っていたが，2015年2月に至り，「原発地質・地下水問題汚染水問題団体研究グループ（略称：原発団研）を発足させ、本格的に福島第一原発の地質や地下水の調査・研究に取り組み始めた．実際には原発の敷地に立ち入ることが出来ないため，原発団研は，地質・地下水に関する調査を福島第一原発敷地と類似した地質条件を持つ南相馬市などで行い，その結果を福島汚染問題の検討・解決のために用いることとした．また汚染水問題について，東電や国などから公表された資料を，地質学的調査結果を踏まえてチェックして，問題点を明らかにし，必要な提言を行うことを目標とした．そのこれまでの結果が，この度，まとめられたわけである．

本専報は以下の各章からなる．

第1章：福島第一原発事故の経緯と原発団研の活動
第2章：福島第一原発の汚染水問題とこれまでの対策
第3章：浜通り地域と福島第一原発周辺の地形と地質
第4章：福島第一原発の地下地質
第5章：福島第一原発の水文地質
第6章：福島第一原発の地下水流動
第7章：福島第一原発の汚染水対策の評価と課題
第8章：福島第一原発の地盤問題
第9章：福島第一原発廃炉の課題 ― 地質・地下水の視点から ―

字数の都合上、これら各章の個別の内容をここに記すことは出来ないが，注目すべきは，地下の実際の地質や地下水流が，東電が作成し使用している断面図による想定よりも複雑であることが明らかにされていることである．つまり，地質・地下水の状況認識が大雑把なままで，安易に工法・対策を計画・実施してきたことが，汚染水が減少しない要因であることが，確認されたことになる．出てきてみれば、案じられた通りの結果に過ぎないかも知れない．しかし，この本では，問題の指摘に止まらず，第7章で，以下のような，具体的な汚染水対策の提案にまで踏み込んでいることが注目される．

1）当面の10年程度の中期的対策：地下水汲上げ井戸（サブドレイン）の増強．
2）100年を越える長期対策：地中連続壁を用いた広域遮水壁と集水井戸の設置．

後者は，東電の工法・対策と異なり，地層を凍結させるのでなく，セメントを使う話である．筆者はかねて，何故普通のようにセメントを使わないのか，不思議に思ってきた．この点について，第7章の著者達は，”（東電の）地下水バイパスと陸側遮水壁に替わる工法は，新技術である必要はなく，これまでに施工実績があり，信頼性の高い在来工法を適用できる”と明言している．やはり，凍結などと奇妙な工事をする必要はないのだろう。

ところで，筆者は，かねて，機会ある毎に，この地球表層で何かをしようとするならば，まず自然，とくに地形・地質の状態・条件に眼を配らなければならないことを力説してきた（たとえば，志岐：2018）．しかし、ともすれば，我田引水的発言と思われてか，必ずしも良く聴いてもらえなかった．この点で，今回の地団研の専報は，地質のじっくりとした調査の重要性を，他の専門の人びとにも理解してもらうに絶好の資料となると思われる．この点で，困難を克服して何年も調査をすすめられた方々，その結果をまとめられた方々に深く敬意を表する．

ちなみに，この報告の著者達は，調査範囲や公表資料の限定のために未解明な事項がいくつもあると記している．またさらに，東電や国が調査をしっかりとやり直し，その結果を公開すること，さらに，第三者の検証を受けて，信頼度の高い地下水流動解析と汚染水対策の効果予測を行うことを要望している．それは良い．しかし筆者は思う．本来，東電は，この特別に困難な事態の解決のために，広く専門家に調査・研究を依頼すべきであり，その中には，誰よりも，すでに“かなりの”調査・研究を行って，今後の検討課題を指摘している，この「原発団研」調査団のメンバーが招かるベキであろう．経費と時間の節約の上からも，それが良いではないか

なお，原発稼働問題一般の，最大のアキレス腱は，増え続ける放射性物質の処理であるが，これについては，やはり地団研から，薄いブックレットとして“高レベル放射性廃棄物はふやさない，埋めない”が発行され註）すでに約1万部が普及されている．合わせて読まれることをお薦めする．

註（文献）：
地団研ブックレット13 高レベル放射性廃棄物はふやさない，埋めない 44頁，2019.
志岐常正．災害と防災 -「想定外」では澄まない現実と人類の採るべき道．22世紀アートホーム社．2021．(同じメインタイトル名の紙出版．本の泉社，2018より電子化)

問い合わせ先：171-0022東京都豊島区南池袋2-24-1八大ビル301号
E-mail：chidanken@tokyo.email.ne.jp
Fax：03-3983-7525　電話：03-3983-3378
（**志岐常正**）

地質学露頭紹介

2021年名古屋大会（オンライン）にて，多くの人に見てほしい，知ってほしい，議論したい露頭の写真を持ち寄り，その地質学的意味について解説・議論するイベントを開催しました．参加者の選りすぐりの露頭紹介をお楽しみください．この記事の内容は学会HPでもご覧いただけます（HPではカラー写真が示されています）．なお，今回の企画が好評だったことから，今後も開催したいと考えています．次回はより多くの方から露頭紹介していただけることを期待しています．（行事委員長　星　博幸）

中央構造線活断層系川上断層の露頭　窪田安打（応用地質株式会社）

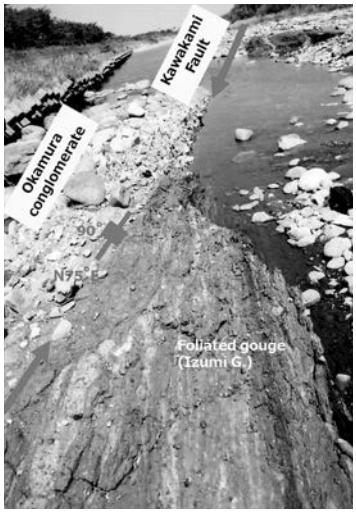


写真1　川上断層の露頭(2002年撮影)その後の河川浸食により，現在は露頭範囲が減少している．

露頭の場所：愛媛県西条市丹原町湯谷口・中山川河床

概要：中央構造線（Median Tectonic Line: MTL）は西南日本の内帯と外帯を境する断層である．この中央構造線に平行に分布する活断層は中央構造線活断層系と呼ばれており，第四紀に右ずれ運動を生じている（岡田, 1972）．愛媛県西条市丹原町湯谷口の中山川河床（北緯33度51分21.66秒，東経133度0分45.81秒）には，中央構造線活断層系の川上断層がMTLより北側80 m付近に分布しており，両断層が連続露頭で観察できる貴重な露頭であるため，ここに紹介する．なお，本露頭は愛媛県指定天然記念物「衝上断層」に指定されているため，試料採取等の行為は許可が必要である．

(1) 川上断層の露頭（写真1）　上部白亜系和泉層群と鮮新統－中期更新統の岡村層相当の礫層（森野ほか, 2002）が断層（N70°–80° E 80° S–90°）で接しており，断層境界の南側には順に和泉層群起源の幅10 m程度の断層ガウジと幅70 m程度のカタクレーサイトが分布する．断層沿いの礫層には地層の引きずりや礫の長軸が断層面に平行にほぼ水平に配列する変形構造が認められる．断層境界から幅約3 mの断層ガウジには右ずれの複合面構造が認められるが，幅5 mより南側の範囲には左ずれ（北側上昇成分を伴う）の複合面構造が認められる．更に南側のカタクレーサイトには，和泉層群の引きずり褶曲や左ずれセンスのせん断面が発達する．このせん断面の一部には右ずれの変形が重複して発達する．以上の地質構造に基づくと，川上断層は左ずれ断層により幅広い破砕帯を形成した後，第四紀に右ずれ断層として活動したと考えられる（Kubota et al., 2020）．

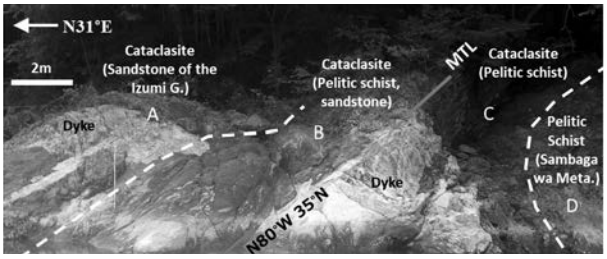


写真2　中央構造線の露頭（中山川の右岸側）．

(2) 中央構造線の露頭（写真2）　本露頭のMTLは外帯の三波川結晶片岩類と内帯の和泉層群の境界断層（N80° W 35° N）である．境界には幅4-5 m程度の泥質片岩が著しく破砕されたカタクレーサイトが分布しており（Fig. 2のB, C），中期中新世の岩脈が貫入している．このカタクレーサイトには和泉層群の砂岩片も取り込まれており，両者が接触した関係で破砕されたことを示している（Fig. 2のB）．このカタクレーサイトには，Top-to-the-Northの正断層を示す複合面構造が顕著に発達するが，更にNW-SE方向の軸を持つ褶曲構造が重複して分布する．研磨片・薄片の観察の結果，Top-to-the-Northの正断層後に，Top-to-the-SWの左ずれ逆断層が生じたことが判った．Kubota et al.（2020）は，断層ガウジの年代測定等により，両断層運動は和泉層群と三波川帯が接合した市之川フェーズ（59 Ma）と先砥部フェーズ（47-46 Ma）の運動であると示した．

（文献）Kubota et al., 2020, Tectonics, 39, e2018TC005372.；森野道夫ほか, 2002, 地質学雑誌, 108, Ⅲ-Ⅳ；岡田篤正, 1972, 愛知県立大文学部論集, 23, 68-94.

変形構造から読み解くテクトニクス　竹下　徹（北海道大）

今回の地質学露頭紹介では「変形構造から読み解くテクトニクス」と題して，短縮と伸張テクトニクスを示す地質構造の露頭の例を紹介した．実際には露頭に現れている短縮テクトニクスを示す地質構造を１つ，伸張テクトニクスを示す地質構造を２つ紹介した．伸張テクトニクスを示す１つの地質構造は，その露頭写真が構造地質部会が作成した『日本の地質構造100選』（朝倉書店）に掲載されている．また, そのWEB写真集（http://struct.geosociety.jp/pub/100JSG/Photos/Photos.html）に，短縮テクトニクスを示す地質構造は掲載されている．短縮テクトニクスを示す地質構造は，島根県大社町の大社漁港付近の海岸沿いに位置する．ここは，出雲大社や島根ワイナリーの近くでアクセスが良く，巡検に適している．短縮テクトニクスは，日本海拡大時最盛期に堆積した成相寺層（17.75 Maの有孔虫年代が得られている；野村ほか, 2018, 地質雑）の転倒褶曲構造とそれを切断する逆断層で示され，宍道褶曲帯（例えば鹿野ほか,

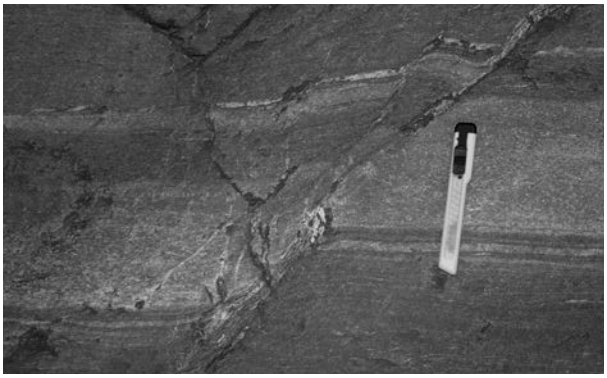


図１　新居浜市付近の三波川変成岩中に形成されたD_2正断層．本正断層はほぼ垂直で現在の姿勢では横ずれ断層と見なされるが，D_3褶曲をもとに戻すと正断層となる．

1998, 大社地域の地質，5万分の1地質図幅）の一部を構成する．この露頭の成相寺層は良く成層した流紋岩質の凝灰岩で構成され，逆断層部で地層は逆転している．したがって，この転倒褶曲構造・逆断層は日本海拡大後のインバージョンテクトニクスを示す．なお，この大社漁港付近の露頭を含んで，周囲の地質および露頭は島根大学大学院教育学研究科（当時）の成相俊之氏が作成されたホームページ（出雲の地質，http://izumonotishitu.la.coocan.jp/shuukyoku.html）に大変詳しく纏められている．

一方，伸張テクトニクスを示す地質構造については，紹介者が長年研究して来た四国中央部新居浜市付近の三波川変成岩上昇時のそれを示す露頭を紹介した．最初の露頭は国領川沿いの露頭で，既に『日本の地質構造100選』に報告したものである．三波川変成岩は上昇時に最初は流動変形を被ったが，脆性―塑性転移を越えてさらに上昇した時，正断層形成による伸張テクトニクスを被った（e.g., El-Fakharani and Takeshita, 2008）．この露頭は伸張デユープレックス（extensional duplex, https://kotobank.jp/word/伸張デュープレックス-1547364，村田明広氏による）と呼べる構造を示すが，上下をルーフおよびフロアー正断層に挟まれ，その間でレイヤーが数多くの小正断層で切られている．薄片スケールのシェアバンドと同一の構造である．ここでは，ルーフ正断層に沿って厚さ15 cmの石灰岩レイヤーが存在する．最後の露頭写真（図１）は流動変形を伴う正断層を示し，脆性―塑性転移の条件（温度約300℃）で形成されたと推察される．変成した砂岩レイヤーが断層によってドラッグされ，著しく薄化していることに注目して欲しい．

関東山地北部秩父帯の褶曲と変成縞　清水以知子（京都大学）

関東山地の北部秩父帯のジュラ紀付加コンプレックスは，三波川変成帯の弱変成部とみなされる前期白亜紀の変成作用と延性変形を受けている（Shimizu, 1988, 地質雑；Shimizu and Yoshida, 2004, Island Arc）．写真1は群馬県万場町の神流川沿いに露出する柏木ユニットの褶曲露頭であり，砂岩・泥岩・酸性凝灰岩互層が大きく曲げられている．水平に近い褶曲軸面に平行に発達する劈開は，顕微鏡下ではイライトや緑泥石の定向配列による片理面（S_1）によって形づくられていることが確認できる．したがって，褶曲は変成ピーク時に片理と同時に形成されたもの（F_1褶曲）ということができる．三波川帯や北部秩父帯には片理形成後の褶曲（F_2褶曲）は数多く見られるが，F_1褶曲は稀であり，この大きさのものはこの露頭でしか確認されていない．

褶曲軸部では片理面S_1と層理面（S_0）が大きく斜交し（写真1），酸性凝灰岩ないし凝灰質砂岩よりなる珪質層には，5 mm程度の間隔でリズミックな縞状構造が発達する（写真2）．このことから，縞状構造は初生の堆積構造とは関係なく，変成・変形作用によって形成されたことがわかる．鏡下の観察では縞状構造の暗色部に圧力溶解シームが密に発達しており（Shimizu, 1988, Plate I-4），圧力溶解-沈殿作用によるシリカの移動が変成縞形成の素過程であったと推察される．このように変成分離作用のみによって形成されたことがわかる肉眼的にも明瞭な縞状構造は珍しく，学術的にも大変貴重な露頭である．

写真1　褶曲軸部の露頭写真（吉田鎮男氏提供）．左側の黒色の泥岩を主とする互層には級化層理がみられる．右側の珪質層には縞状構造が発達する．

写真2　珪質層にみられる変成縞のクローズアップ．

蛇紋岩メランジュの蛇紋岩露頭　辻森 樹（東北大学）

中国山地中央部大佐山蛇紋岩メランジュ（OSM）の蛇紋岩マトリクス中の蛇紋岩ブロックの産状の写真を紹介した．近年，スラブ及び含水ウェッジマントル内部の元素の挙動について，天然試料の岩石学・地球化学と実験岩石学双方のアプローチから素過程を理解する試みがなされている．例えば，ホウ素（^{10}B・^{11}B）は^{11}Bが選択的に液相に移動し，脱水反応によってスラブのB同位体比は軽くなることが知られている．Yamada, Tsujimori et al.（2019a *Lithos*）は，Martin et al.（2016

Geology）の局所B同位体比（δ^{11}B）分析による蛇紋岩の構造場識別の先駆的な試みを完全に支持する結果を北米フランシスカン帯の蛇紋岩の研究で得て，地球化学モデリングによってスラブ脱水による含水マントルウェッジのB同位体比の空間変化傾向を予測した．さらに，自ら提案した蛇紋岩のB同位体比傾向（高圧変成蛇紋岩のδ^{11}B値は+10‰より小さい）を蓮華帯糸魚川地域の蛇紋岩で検証・確認した後（Yamada, Tsujimori et al. 2019b *JMPS*），OSMの蛇紋岩メランジュ内のB同位体比マッピング（アイソスケープ）を試みた（Tsujimori, Yamada et al. 2021 地質学会演旨）．

OSMは古生代前期の大江山オフィオライト構成岩及びひすい輝石岩と約3.5億年前の蓮華変成岩が構造的に混合した蛇紋岩メランジュである（Tsujimori 1997 *Min.Mag.*，辻森 1999 地質雑，Tsujimori and Itaya 1999 *IAR*，Tsujimori and Liou 2005 *IGR*など）．メランジュマトリクスには蛇紋岩化を免れた初生的なマントル鉱物を比較的保存した塊状の蛇紋岩も含まれるが，クロムスピネル残晶の化学組成傾向，含Na透閃石の分布，蛇紋石鉱物の組み合わせで明瞭に両者を識別することはできなかった．ところが，それらのB同位体比と微量元素のマッピングによって，高圧変成作用に関係したスラブ流体の影響を被った低（軽い）δ^{11}B蛇紋岩とそうではない高（重い）δ^{11}B蛇紋岩に識別が可能であることが分かった．この露頭写真の塊状の蛇紋岩は後者に相当し，高δ^{11}B蛇紋岩の分布は地質図スケールでマッピングできる．

Wawaの縞状鉄鉱層　大久保英彦（スターミネラルズジャパン）

【露頭の位置】District of Algoma Province, Ontario, Canada. スペリオル湖東岸のMichipicoten Bayの南東側．トランスカナダハイウエイHWY17をWawaの町から11.1 km南下した場所．北西にはBridget Lake，南東にはAntoine Lakeがある．北緯47度53分44.5秒，西経84度50分48.5秒をグーグルマップで検索し，場所が表示されたらストリートビューにすると，道路の東側の露頭を見ることができる．

【地質学的背景・意義】Superior Province（3100–2500 Ma）のWawa Subprovince: Wawa Neoarchean（2750 Ma）に属する，Michipicoten Greenstone Belt（2750–2735 Ma）地域．Greenstone Beltの上の始生代アルゴマ型縞状鉄鉱層が容易に観察できる．北東に世界最大級のAbitibi Greenstone Belt（2800–2600 Ma）があり，Greenstone Beltと火成複合岩体を調べることは大変面白い．

【露頭の概況】HWY17の東側に幅100 m，高さ4～1.2 mに渡って露頭があり，右から左（SW–NE）に傾斜している．ここに至る道路の左右には輝緑岩の露頭が続き，グリーンストーンベルト帯であることがわかる．輝緑岩の上に縞状鉄鉱層があり，露頭を登ると最上部は磁鉄鉱層が縞模様を見せて広がっている．道路と同方向に滑らかな垂直な断面と，破壊されて凸凹になった部分がある．

【層序】下部，中部A，中部Bは写真1を，上部は写真2を参照．

下部：変質した苦鉄質火山岩の輝緑岩（diabase）= Michipicoten Greenstone Belt．露頭での層厚は約3 m～1 m．

中部A：褶曲が顕著で青みを帯びた磁鉄鉱層を含む淡灰色チャート層．磁鉄鉱層は5 mmから30 cm．層厚約1 m．

中部B：褶曲が緩やかな淡褐色チャート層．層厚約1 m．菱鉄鉱（siderite: FeCO3）と思われる濃赤色の層（約10 cm）がある．

上部：露頭の上は青みを帯びた黒色の磁鉄鉱層が一面に広がる．層厚約50 cm．7万年前に北東から，2万年前に東南東から二度の氷河が流れ，上部が約1000 m程度削られている．磁鉄鉱層の起伏には細い珪酸塩岩や炭酸塩岩を含む磁鉄鉱の同心楕円状の模様があり，起伏の方向と氷河と共に移動した石の傷跡で氷河が流れた方向がわかる．

アルゴマ型縞状鉄鉱層は小規模だが，オンタリオ州には火成複合岩体と関連するGreenstone Beltが数多く存在し，氷河の痕跡と合わせてカナダの地質時代の大きなイベントが残り，大変興味深い．なお，次のウェヴサイト（https://star-minerals.com/cell/?p=15）にWawaの縞状鉄鉱層の露頭や採集した岩石の写真を載せてある．

（文献）

Eyles, N., 2002, Ontario Rocks: Three Billion Years of Environmental Change. ISBN 1550416197.

Eyles, N. and Miall, A., 2007, Canada Rocks: The Geologic Journey. ISBN 1550418602.

Morris, T.F. et al., 1994, Ontario Geological Survey, Open File Report 5908.

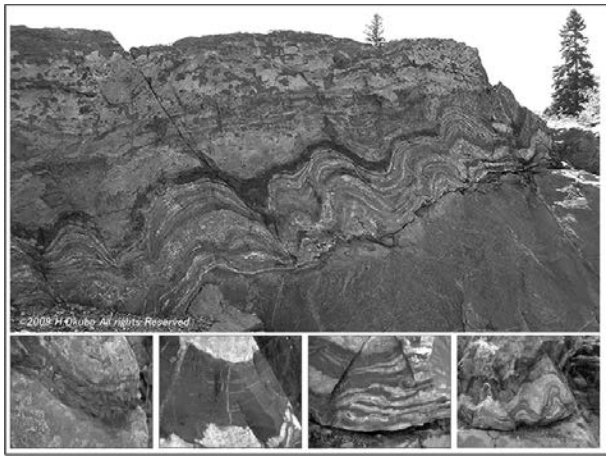


写真1　縞状鉄鉱層の露頭．左から，淡褐色チャート層，磁鉄鉱を含む淡灰色チャート層，褶曲した淡褐色チャート層．

写真2　露頭上部の厚い磁鉄鉱層と炭酸塩岩や珪酸塩岩の多様な縞模様を見せる磁鉄鉱．

アイスランドの溶岩断面　星　博幸（愛知教育大）

筆者は日本学術振興会の二国間交流事業共同研究・セミナー及び国際共同研究加速基金国際共同研究強化（B）の支援を受け（いずれも代表者は山本裕二・高知大学教授），2018年から毎年アイスランドで地質調査をしている（ただし2020年と2021年はCOVID-19パンデミックにより渡航できなかった）．この研究の目的は，地磁気の逆転頻度と地磁気平均強度との間に関連性があるという仮説（Aubert et al., 2010）を検証することである．この検証には質・量とも十分な古地磁気データが必要であり，筆者らは手始めにアイスランド西部のルンダールハルス（Lundarháls）地域の鮮新世玄武岩溶岩シーケンスを対象として研究に取り組んでいる．この研究で筆者は地質マッピングによる岩相層序記載と地質構造調査，及び岩石サンプリングを担当している．ルンダールハルス地域の古地磁気研究の概要については星ほか（2019）が紹介している．

写真はルンダールハルス地域のガリー（gully）に露出している溶岩シーケンスの断面である．多数のアア溶岩とパホイホイ溶岩が累重している．この写真中の溶岩は厚さ数mのものが多い．溶岩と溶岩の間に厚さ数cm～数mの赤褐色～黄褐色堆積物が挟まることが多いが，複数のパホイホイ溶岩（溶岩ローブ）が堆積物を欠いて連続的に重なることもある．調査セクションに認められるすべての溶岩からサンプルを採取するため，溶岩を見逃さないように慎重に調査・記載する．また，この写真には写っていないが岩脈とシルが貫入していることもあり，それらの識別も重要である．アイスランドは一般に植生が貧弱なので岩石の露出が良好である．日本のフィールドで露頭探しに苦労することの多い地質屋にとって，アイスランドはパラダイスである．ただし物価は決して安くないので，調査を計画する際には注意を要する．

アイスランド西部，ルンダールハルス地域のガリーに露出する溶岩シーケンス．

（文献）
Aubert et al., 2010, Space Sci. Rev., 155, 337–370.
星ほか, 2019, 地質学会第126年大会演旨, 569.

香川県荘内半島に見られる花崗岩境界　下岡和也（愛媛大学・院生）

白亜紀の環太平洋地域では，「フレアアップ」と呼ばれる地殻中へのマグマのインプットが異常に増加する時期が存在した．フレアアップ期の火成活動は，地殻中に巨大バソリス，地上に大規模カルデラを形成し（deSilva et al. 2015, Elements），大陸地殻の成長プロセスを解明するため鍵であると考えられている．中央構造線以北から山陰地域にかけて分布する西南日本の白亜紀花崗岩もこのフレアアップイベントによって形成されたと考えられている（例えば，Takatsuka et al. 2018, Lithos）．荘内半島は，香川県三豊市に属する半島で，大部分が白亜紀フレアアップ期の花崗岩を主体とする深成岩からなる．この地域は，他の白亜紀花崗岩地域と比較すると，苦鉄質岩脈や苦鉄質火成包有岩（Mafic Magmatic Enclaves: MME）を多く産する．近年の研究から，これらの苦鉄質岩類と花崗岩とは成因的に関連性があると示されている（例えば，中島 2018, 地質学雑誌）．このことから，筆者は，荘内半島の深成岩によりフレアアップ期の火成作用の機序を議論できると考え研究を進めている．

今回紹介する花崗岩境界は，荘内半島先端の三崎灯台から海岸線へと降りて，東に1.2 km程度歩いた地点（北緯34度15分51.0秒，東経133度33分59.1秒）にて観察できる．写真中では，中央部横方向に粗粒花崗岩（下）と細粒花崗岩（上）の境界が確認できる．粗粒花崗岩は塊状均質な産状であるが，細粒花崗岩はMME（黒色ツブツブ）を多量に産し，しばしば変成岩捕獲岩（画面中央シマシマ）を含む．MMEはその形態や鏡下での特徴から花崗岩質マグマとマグマの状態で共存し形成されたと考えられる．露頭産状による前後関係から，粗粒花崗岩に対して細粒花崗岩が貫入している．このことは，単調な花崗岩形成から，苦鉄質岩を伴うドラマチックな花崗岩形成へとマグマ溜まり内の様相が変化していることを示唆する．

地殻中の熱的・化学的特徴の変化が妄想できる花崗岩境界，是非お立ち寄りください！（干満表読み間違えると瀬戸内海の荒波に揉みくちゃにされます．ランチと飲み物もお忘れなく！）

河川堆積物に見られるHCSのような構造　小松原純子（産総研）

野島層群大屋層の河川流路堆積物中に見られる斜交層理

長崎県佐世保市小佐々町楠泊の海岸に露出している前期中新世野島層群大屋層の河川流路堆積物上部には，ハンモック状斜交層理（HCS）のような低角で比較的波長の長い斜交層理が見られる（小松原ほか, 2003）．HCSは一般に荒天時に海底で形成されると考えられており，晴天時波浪限界以下で保存されたものが地層として残る（Harms et al., 1975）．堆積環境と堆積構造の不一致が気になっており今回写真を紹介したところ，アンチデューンもしくはHCS-mimicsではないかというコメントをいただいた．HCS-mimicsはアンチデューンとして形成された，HCSによく似た構造のことである（増田ほか, 1993）．いずれも高流領域で形成され，陸上の洪水堆積物からも報告がある．今回の構造はこれらである可能性が高いと考えられる．

（文献）

Harms J. C., et al., 1975, SEPM Short Course no. 2, 161p.
小松原純子ほか, 2003,地質学雑誌, 109, 20-29.
増田富士雄ほか, 1993, 堆積学研究会報, no. 39, 27-34.

京都大学の地球科学分野での研究不正問題について

一般社団法人日本地質学会
会長　磯崎行雄

新聞やTVニュースなどを通して大きく報道されたので，本学会会員の皆様は既にご存知であると思いますが，国際学術誌に発表された地球科学分野論文をめぐる研究不正疑惑が2019年春に発覚しました．その研究不正を行ったとされたのは，当時京都大学教授であり，また日本地質学会の正会員でした．会員の皆様もこのようなことが私たちの分野で起きたことは残念至極と感じられたことと思います．

不正の指摘があった直後から京都大学では詳しい内部調査を始め，その調査中に当該者は大学を辞職し，また本学会には昨年度退会届を提出しました．発覚から約２年が経過し，先日2021年9月末に京都大学から最終的な調査報告がなされました．その詳細は大学のホームページ（https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2021-09-28-0）に公開されていますので，随時参照できます．その内容は，以下の点に要約されます．

1）当該者が主著者として公表された最近の主要な4編の国際学術誌論文の中に，主な不正行為として故意のデータの捏造と改ざんが37箇所に，また不適切なデータの取り扱い箇所が多数認められた．
2）これらの箇所を含む論文について，当該者に対して撤回の勧告をした．
3）同大学就業規則に基づき，懲戒解雇処分相当とする．
4）再発防止のために，スタッフ及び学生・院生に対する教育を徹底させる．

このような研究不正自体はまさに学問を冒涜するものであり，京都大学が出した結論は極めて妥当です．本件は京都大学の中に閉じた事柄ではく，本学会を含む地球科学コミュニティー全体で真摯に受け止めねばなりません．業績構築のために不正を行う背景には昨今の行き過ぎた研究成果至上主義があると考えられます．とはいえ，卑しくも科学研究に身を置くものにとって研究不正は言語道断であり，そのことを改めて本学会員の間で認識共有する必要があります．今回の一件に関する大学内での調査のために，他の善良な研究者から膨大な研究時間を奪ったと想像され，対応された会員の方々を労いたいと思います．

今回のような研究不正に関係する問題は大学などの学校あるいは研究所に所属する会員だけの話と思われがちですが，そうではありません．今回の不正論文では，当該者が地質調査業者に外注したデータについて改ざんがなされ，中には現場調査に関わった業者の方々の同意なしに共著者に加えられていたケースもあったようです．したがって，研究にご協力いただく地質調査業の会員の皆様にも，このような不名誉な事件に巻き込まれないよう注意を喚起したいと思います．

日本地質学会が，あくまで公明正大に学問を進める健全な学会であり続けられるよう，改めて会員の皆様の意識徹底をお願い申し上げます．

CALENDAR

2021.11～

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
★印は学会主催，（共）共催，（後）後援，（協）協賛．

2021年

11月　November

九州・沖縄地区会議学術講演会「持続可能な地域の強靭化と将来空間像：防災・減災対策の次なるステージを目指して」
11月1日（月）14:00-16:10
オンライン開催
参加費無料，要事前申込
https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/313-s-1101.html

第234回地質汚染・災害イブニングセミナー（オンライン）
11月5日（金）18:30-20:30
講師：宮崎　淳（創価大学法学部教授）
演題：「水循環基本法の改正と今後の展望」
http://www.npo-geopol.or.jp/event.htm

学術会議公開シンポジウム「防災教育と災害伝承」
（ぼうさいこくたいのセッションとして開催するシンポジウム）
11日6日（土）14:30-16:00
オンライン開催
定員：1000名（Zoomウェビナー）
参加費無料・要事前申込
https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/316-s-1106-2.html

茨城大学図書館オンライン土曜アカデミー「チバニアン誕生：方位磁針のN極が南をさす時代へ」
11月6日（土）14:00-15:30（zoomによるオンライン開催）
講師：岡田 誠（茨城大学理学部教授）
参加費無料・要申込(先着450名)
http://www.lib.ibaraki.ac.jp/news/?id=356

日本不動産学会シンポジウム「山岳国立公園管理の将来：レクリエーション・登山のための利活用を探る」
11月10日（水）15:00-18:00
開催形態：インターネット（Zoom）配信
参加費無料・定員200名（先着順）
要参加申込：11月4日（木）
http://www.jares.or.jp/events/2021.11.10_sympo.html

第34回 地質調査総合センターシンポジウム：防災・減災に向けた産総研の地震・津波・火山研究ー東日本大震災から10年の成果と今後ー
11月12日（金）10:00-15:35（予定）
方法：オンライン開催
参加費無料（事前登録制・定員500名）
https://www.gsj.jp/researches/gsj-symposium/sympo34/index.html

（後）第31回社会地質学シンポジウム
11月26日（金）・27日（土）
開催方式：WEB開催（Zoomミーティング）
https://www.jspmug.org/

12月　December

日本学術会議主催学術フォーラム「地球環境変動と人間活動―地球規模の環境変化にどう対応したらよいか―」
12月5日（日）13:00-17:50
オンライン開催
参加費無料・要事前申込
https://www.scj.go.jp/ja/event/2021/315-s-1205.html

地質学史懇話会［オンラインと対面のハイブリッド］
12月19日（日）13:30-16:30
場所：早稲田奉仕園（東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分）
青木滋之「ダーウィンと科学哲学　―同時代、現代の視点から―」
加藤碩一「菜食主義とライマン・宮沢賢治余聞」
連絡先：矢島道子pxi02070@nifty.com

海と地球のシンポジウム2021
12月20日（月）-21日（火）
主催：AORI・JAMSTEC
開催方法：実会場とオンライン会場を使ったハイブリッド形式
※感染症の状況により変更・中止する場合があります．
https://www.jamstec.go.jp/j/pr-event/ocean-and-earth2021/

2022年

3月　March

第27回日本災害医学会総会・学術集会
3月3日（木）-5日（土）
会場：広島国際会議場・広島市文化交流会館ほか
テーマ：災害医療のパラダイムシフトー何を攻め・守り・育てるのかー
https://site2.convention.co.jp/27jadm/

7月　July

（共）岩石―水相互作用国際会議（WRI-17）
7月30日（土）より
会場：仙台市
https://www.wri17.com/

注意：新型コロナウィルス感染拡大の影響により，行事中止の可能性もあります．実際の行事開催の有無については事前に各主催者，問い合わせ先にご確認ください．

研究室紹介
千葉大学理学部地球科学科：岩石鉱物学研究室

千葉大学大学院 融合理工学府
地球環境科学専攻 地球科学コース
修士1年 高見澤　駿
修士2年 青島　優生

千葉大学理学部地球科学科は地球内部科学領域の岩石鉱物学分野・地球物理学分野・地殻構造学分野，地球表層科学領域の層序学分野・地形学分野・生物地球化学分野，環境リモートセンシング領域の大気・水循環分野・陸域環境分野から構成されている．今回は筆者が在籍する地球内部科学領域の岩石鉱物学分野について紹介する．

岩石鉱物学分野では，津久井雅志教授（火山地質学・火成岩岩石学），市山祐司准教授（岩石学・地質学），古川登助教（実験岩石学・鉱物学）の3人の教員が指導にあたり，修士課程5名，学部生5名（2021年9月時点）が在籍している．本分野では毎週月曜日に分野全員が集まり，学生が研究の進捗状況を報告する岩鉱ゼミと呼ばれるものが開かれる．前期2回，後期2回の計4回，ローテーションを組みながら各員，発表を行う．分野内でも指導教員により専門は大きく異なるが，様々な視点からの意見を取り入れることができる環境である．また，学生の部屋は院生・学部生全員のデスクが1つにまとまっており，ゼミ以外でも日常的に学年・専門を超えた議論が交わされている．現在はコロナウイルスの蔓延に伴って研究室のイベントは制限されているが，蔓延以前では学生による巡検やキャンプ，お花見，忘年会など一年を通して様々なイベントが行われていた．このような環境によって学生間の仲は非常に良いことが特徴である．また，本分野の学生の多くは修士課程まで進学し，その後は地質コンサルタントや研究所，鉱山会社など専門を生かした職に就く場合が多い．以下では各指導教員の専門と学生の研究内容について簡単に紹介する．

津久井研究室

津久井研究室では，伊豆諸島の活火山を主な対象として，火山層序学的研究やマグマ供給系の解明を目指した岩石学的な研究を行っている．また最近では，古文書の記録から過去の火山災害（例えば1888年磐梯山山体崩壊，1792年雲仙・眉山山体崩壊など）の復元を試みる研究も行っている．現在は院生2名，学部生3名が在籍し，伊豆諸島の利島・神津島・八丈島・三宅島（写真1），赤城山（群馬県），磐梯山（福島県）を対象として日々，研究を行っている．伊豆諸島を構成する火山は伊豆・小笠原弧に沿うようにして，玄武岩から流紋岩まで幅広い化学組成を持つ火山が分布していることで知られており，これらの火山のマグマはマグマ混合などの複雑な要因で形成されていると考えられている．マグマ供給系の解明に向けた研究では火山噴出物中の鉱物組み合わせや全岩・鉱物化学組成などの情報が不可欠であるため，野外調査，試料採取，薄片観察，化学分析など様々な手法を用いて日々研究を行っている．

市山研究室

市山研究室では，造山帯に露出した海洋リソスフェアの断片（オフィオライト）や上部マントルで生じたマグマによって形成された巨大火成岩岩石地区(LIP)など，主に下部地殻～上部マントルでの諸現象の解明に向けた研究を行っている．研究手法としては野外調査，岩石記載を始めとして，全岩化学組成，鉱物主要元素組成分析，鉱物微量元素組成分析，ジルコンU-Pb年代測定，同位体測定など様々であり，これらの手法を用いて対象とする岩石の起源や形成過程，変成履歴の推定を行っている．現在は院生3名，学部生1名が在籍し，三波川帯東赤石山周辺地域（愛媛県，写真2），早池峰・宮守オフィオライト（岩手県），神居古潭帯（北海道，写真3），夜久野オフィオライト（福井県）を対象として日々，研究を行っている．三波川帯東赤石地域では超苦鉄質岩類の起源推定，早池峰・宮守オフィオライトでは形成過程の検討，神居古潭帯ではマントルウェッジの加水履歴の検討，夜久野オフィオライトでは形成年代の整理・再考を目的としており，それぞれのフィールドでは目的や手法が大きく異なるのが特徴である．津久井研究室と同じく，野外調査，試料採取，薄片観察を第一に行い，目的に応じた化学分析を精力的に行っている．

古川研究室

古川研究室では，アルゴンガスを用いた高温高圧実験装置などを用いて地球内部で鉱物や岩石がどのように変化するのかを検討することを目的として研究を行っている．現在は学部生1名が所属し，氷河などのアイスコア中から発見されたバテライトと呼ばれる方解石の多型鉱物を対象に，その再現実験や安定性の評価などを行っている．

写真左から，（写真1）伊豆諸島三宅島における調査の様子．先行研究において記載されているスコリア層を示している．伊豆諸島ではこのような極めて露出が良い露頭が多くみられ，広範囲にわたり詳細に調査されている．（写真2）三波川帯東赤石山かんらん岩体における調査の様子．これらは全て新鮮なかんらん岩体であり，エクロジャイト相に相当する超高圧変成作用を被ったとされる．東赤石山周辺で最も標高が高い地域に分布するため，このように登山をしながら試料採取を行う．（写真3）神居古潭帯鷹泊岩体における調査の様子．これらはすべて蛇紋岩であり，沈み込み帯のマントルウェッジを形成していたと考えられる岩体である．蛇紋岩の分布地域はなだらかな地形を形成する場合が多く，サンプリングをする場合，露出の良い沢を重点的に調査することが多い．

院生コーナー

本分野の魅力の1つは，各学生が研究対象としているフィールドがバラエティーに富んでいる点である．構成する岩石の種類や形成過程，形成年代など，岩石学的・地質学的背景が異なるため，学生同士で研究の話を少しするだけで新しい知識や見解を得ることができる．具体的に学生のフィールドで見られる岩石として，利島では玄武岩質安山岩，神津島では流紋岩，東赤石地域ではかんらん岩，ザクロ石単斜輝岩，エクロジャイト，神居古潭帯ではローソン石青色片岩，角閃岩と，それぞれで全く異なる岩石を見ることができる．また，他の学生の野外調査には同行する機会も多々あり，純粋に他人の調査についていくことを楽しむことができ，加えて現地での食事や景色もまた楽しめる．岩石と旅行が好きな筆者にとって，この両方が満たせる「他人の調査」というのは絶好の機会である．岩石・鉱物が好きです，または旅行が好きですという方は是非岩石鉱物学分野をおすすめしたい．

終わりに

千葉大学理学部地球科学科岩石鉱物学分野は岩石を対象に，マグマ供給系やマントルの諸現象の解明，地球内部での高温高圧における岩石・鉱物の挙動の変化など地球内部の現象の解明に向けて各員が日々，研究に励んでいる．また，理学部地球科学科及び大学院融合理工学府地球科学コースのHP(http://www.earth.s.chiba-u.ac.jp/japanese/home.html)で各分野における成果や研究の様子などを紹介しているので，気軽に見ていただきたい．

常時投稿をお待ちしています．編集は，現在以下の4名で行っています．原稿は1500～5000文字程度，図・写真3点以内を目安に，e-mailでお送りください．

716o.nonn@gmail.com　大山　望（九州大）
a.sakuma@eps.s.u-tokyo.ac.jp　佐久間杏樹（東京大）
dkuwano@chiba-u.jp　桑野太輔（千葉大）
90rymenjpgr@gmail.com　時永万音（新潟大）

支部コーナー

☆四国支部　報告

第21回四国支部 総会・講演会

標記総会・講演会を，下記の通り，WEBで開催します．巡検・懇親会は実施しません．村田明広先生（徳島大学名誉教授）による特別講演を予定しています．講演会の参加に対して，技術者継続教育（CPD）の単位が認定されます．認定証の発行部数把握のため，CPD単位を希望される方は参加申し込み時にその旨お知らせ下さい．

講演会
日時：2021年12月4日（土）　13:00～16:45（予定）
場所：WEB開催（Zoom［予定］および愛媛大学理学部地学コースHP）（本部：愛媛大学理学部）

総会
日時：2020年12月4日（土）　16:55～17:25（予定）（講演会終了後）
場所：WEB開催（Zoom［予定］）（本部：愛媛大学理学部）

講演会参加・発表申込先：鍔本（四国支部事務局）：
tsubamoto@sci.ehime-u.ac.jp
参加・発表申込締切：11月19日（金）

・日本地質学会の会員でない方も参加可能です．
・参加申込の際には，氏名・所属・連絡先・電子メールアドレスを記してください．申し込みをされた方には，後日，Zoom［予定］の参加方法をお知らせします．
・発表申込の場合は，参加申込と同時に，演題・希望発表形式（口頭/ポスター）・学生による発表の場合はその趣旨（優秀賞の対象者となるため），を付記し，講演要旨ファイル2つ（PDFとWord）を併せて添付して下さい．書式は以前の地質学会学術大会と同様とします．テンプレートは，地質学会の四国支部のHP（http://www.geosociety.jp/outline/content0212.html）からダウンロードできます．
・口頭発表（Zoom）の時間は，1件15分（発表12分＋質疑応答3分）とします．口頭発表は，時間の都合上，8件まで受け付けます．8件を超えた場合は，学生の発表を優先します．
・ポスターは，事前にPDFファイルを事務局へ送ってください（**締切：12/1（水）**）．ポスターのPDFは，1枚ものにして，A0サイズを目安に作成してください．PDFファイルの容量は，20MB以下としてください．送っていただいたPDFは，事務局でパスワードによるセキュリティをつけて（印刷等を不可にして）サーバに掲載します．
・ポスター発表する人は，Zoom［予定］での3分間紹介（質疑応答なし）もありますので，準備をお願いします．
・学生による優秀な口頭発表・ポスター発表には「優秀講演賞」・「優秀ポスター賞」を授与します．今回は，賞の決定は講演会当日ではなく，後日になります．

2022 年度の会費払込について

一般社団法人日本地質学会運営規則により，次年分の会費を前納下さいますようお願いいたします．2022 年 4 月～ 2023 年 3 月の会費額は下記の通りです．

会員資格	2022 年 4 月～ 2023 年 3 月分会費
正会員	12,000 円
〃 （院生割引）※　要申請	8,000 円
〃 （学部学生割引）※　要申請	5,000 円

※学部に在籍している学生の方，定収のない大学院生（研究生）の方で，それぞれ所定の書式で申請をされた方にのみ割引会費を適用します．なお，2021 年度までの学部学生割引・院生割引会費についての申請は終了しておりますので，2022 年度会費にのみ適用となります．

１．自動引落を登録されている方の 引き落とし日は 12 月 23 日（木）です．

2022 年度分会費の引き落とし日は 12 月 23 日です．請求書ならびに引き落とし通知の発行は省略させていただきますのでご了承下さい．これより以前に不足額がある場合には加算され，余剰金がある場合はその分を減額して引き落としとなります．通帳には金額とともに「チシツカイヒ」あるいは「フリカエ」，「SMBC」などと表示されますので，必ずご確認下さい．

２．自動引き落としをご利用下さい．

新たに会費の引き落としをご希望の方は，巻末の振替依頼書を 11 月 10 日（水）までに事務局までお送り下さい．また，すでに引き落とし手続きが完了している方で，学部学生割引と院生割引会費の適用を希望される学部生，院生（研究生）の方は 11 月 24 日（水）までに学部学生割引会費・院生割引会費申請書をご提出下さい．期日までにご提出いただけない場合は，正会員の会費で引き落としがかかります．ご了解下さい．

３．上記以外の方（お振り込み）

12 月中旬頃までに請求書兼郵便振替用紙をお送りいたします．折り返しご送金くださいますようお願いいたします．

一般社団法人日本地質学会　会計委員会

一般社団法人日本地質学会運営規則

第２章　第７条（会　費）

学会は会費の年額（４月１日～翌年３月末日）を次のように定め，会員は当該年度の初日までにこれを支払うこととする．入会の際には当該年度の年額を支払うこととする．

(1) 正会員：12,000 円
ただし，大学学部ならびに大学院に在籍するものは，毎年度ごとに所定の申請書を提出した場合，それぞれ学部学生割引と院生割引を適用し，年会費を 5,000 円ならびに 8,000 円とする．これらに準じる身分の学生についても同様の扱いとする．

(2) 賛助会員：１口 25,000 円，２口以上
ただし，諸般の事情により理事会が認める場合は，１口とすることができる．

2　会費の変更は，理事会の議決により，総会の承認を得なければならない．

3　会員は，上記に定める会費を当該会計年度の前に一括納入しなければならない．ただし，やむを得ぬ理由により理事会が認める場合は，分納もしくは減免することができる．

4　会費を滞納した会員については次の処置をとる．

(1) 滞納期間が６ヶ月以上となった場合には，地質学雑誌等の会誌の送付を停止する．

(2) 滞納会費が納入された場合には，送付を停止した地質学雑誌等の会誌の送付を再開する．ただし，会誌の在庫の関係で送付ができないことがある．

(3) 地質学雑誌への投稿，講演会での講演を制限することがある．

(4) 会費支払いの督促を受けつつ，正当な理由なく，かつ，退会届を提出せぬままに会費を滞納した会員は，滞納４年度目をもって，理事会の議決により会員の資格を喪失させ除籍とする．

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，申請により会費を免除いたします．「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2021年度もしくは2022年度会費を免除いたします．

適用を希望される会員は，1. 会員氏名，2. 被災地，3. 被災状況（簡潔に）を添えて学会事務局にお申し出下さい（郵送，FAX，e-mail，電話のいずれでも可）．

申請締切：2021年11月30日（火）（※次年度会費請求の都合により）

学部学生・院生（研究生）の方へ「割引会費申請」について

2022年度（2022．4～2023．3）学部学生割引・院生割引会費の受付開始

一般社団法人日本地質学会運営規則により，学部学生・院生（研究生）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．つきましては，次年度（2022年度）の会費についての申請受付を開始いたしますので，該当される会員は下記の書式にて申請書を提出してください（郵送に限る）．**会費請求書発行の都合もありますので，請求書発行前の受付〆切りは11月24日（水）といたします．とくに口座自動引落で会費を納入されている方は，この期日までに申請書をご提出下さい．なお，これまで（～2021年度）の学部学生割引・院生割引会費についての申請受付は終了していますので，2022年度分の申請のみ適用となります．**

★注意★
毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．
2022年度から社会人になるかたは，割引会費の申請はできません．

送付先：〒101-0032　東京都千代田区岩本町2－8－15　井桁ビル6階
一般社団法人日本地質学会

2022年度一般社団法人日本地質学会
学部学生割引・院生割引会費申請書

一般社団法人日本地質学会　御中

私は，運営規則第2章第7条第1項（1）に基づき，2022年度会費の

学部学生割引　・　院生割引　（いずれかに○）

を申請いたします．

申請日　　年　　月　　日

会員番号：

会員氏名：

現在の所属・学年：

大学	学部　　学科	年在学中
大学大学院	研究科 専攻	前期　・　後期 年在学中

2022年４月からの所属：（現在の所属と同じ場合には「同上」でも可）

大学・大学院名	学部学科・研究科専攻名

上記，本学の学生につき，学部生・定収のない院生（研究生）であることを証明いたします．

指導教員（等）
所属：
氏名：　　印

請求書発行前受付〆切
2021年11月24日（水）

第14回日本地学オリンピック

予選申し込み　（ウェブエントリーのみ）

2021年　9月1日(水)～11月15日(月)

予選

一次予選　（オンライン試験 ： パソコン利用推奨）

2021年12月19日(日)　14:00 - 15:30

二次予選　（筆記試験 ： 全国指定会場）

2022年　1月23日(日)　午後　（予定）

本選　（茨城県つくば市）

2022年　3月13日(日) ~ 15日(火)

国際大会代表選抜　（茨城県つくば市）

2022年　3月15日(火)

（国際大会　第15回国際地学オリンピック　（中国予定）　2022年9月頃）

問い合わせ先

〒113-0032
東京都文京区弥生 2-4-16　学会センタービル内
NPO 法人地学オリンピック日本委員会
https://jeso.jp

共　催：
国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
公益社団法人日本地球惑星科学連合（JpGU）
公益財団法人つくば科学万博記念財団＊

特別共催（予定を含む）：
国立研究開発法人産業技術総合研究所
　地質調査総合センター
国立研究開発法人国立環境研究所
国立研究開発法人防災科学技術研究所
独立行政法人国立科学博物館
茨城県
つくば市
筑波大学

後　援（予定を含む）：
文部科学省
国土地理院
気象研究所
神奈川県立生命の星・地球博物館
神奈川県温泉地学研究所
国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構
国立研究開発法人海洋研究開発機構
茨城県教育委員会
つくば市教育委員会
高等学校文化連盟全国自然科学専門部
筑波山地域ジオパーク推進協議会

協　賛（予定を含む）：
公益財団法人豊田理化学研究所
公益財団法人つくば科学万博記念財団 **
一般社団法人日本地質学会
特定非営利活動法人日本火山学会
公益社団法人東京地学協会
公益社団法人日本地震学会
公益社団法人日本気象学会
日本古生物学会
日本海洋学会
一般社団法人日本鉱物科学会
地球電磁気・地球惑星圏学会
一般社団法人日本地球化学会
公益社団法人日本地理学会
資源地質学会
地学団体研究会
日本第四紀学会
日本測地学会
日本堆積学会
日本地学教育学会
応用地質株式会社
輝日株式会社
そのほか 33 機関.
詳しくは http://jeso.jp/

協　力：
筑波銀行
公益財団法人日本発明振興協会

＊本選
＊＊予選

注：試験方式はコロナウィルス感染症の拡大状況によって変更の可能性があります

NPO 法人地学オリンピック日本委員会

学　会　記　事

日本地質学会2021年度 第1回理事会議事録

日時：2021年6月12日（土）16:30-17:00
【WEB会議形式】
出席者：出席理事41名、出席監事2名
・会長1名：磯崎行雄
・副会長2名：佐々木和彦・平田大二
・常務理事1名：中澤　努
・副常務理事1名：岡田　誠
・執行理事12名：ウォリス サイモン・大藤茂・緒方信一・狩野彰宏・亀高正男・小宮剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森　樹・星博幸・松田達生・矢部　淳
・理事会議長　1名　山口飛鳥
・理事30名（議長・副議長を除く）芦　寿一郎・天野一男・安藤寿男・内野隆之・尾上哲治・亀田　純・川端清司・北村有迅・小松原純子・齋藤　眞・杉田律子・竹下徹・内藤一樹・奈良正和・西　弘嗣・根本直樹・野田　篤・早坂康隆・細矢卓志・保柳康一・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎・山口飛鳥
・監事2名：岩部良子・山本正司
・事務局1名：澤木寿子
欠席者：欠席理事8名
・理事8名：上松（渡邉）佐知子・笠間友博・亀尾浩司・清川昌一・後藤和久・納谷友規・藤井正博・矢島道子
＊開催にあたり，2021年度理事会議長として山口理事，副議長に納谷理事を選出した．
＊議長は審議開始に際し，本日の書記として小松原理事および尾上理事を指名した．
＊成立要件：理事総数49名の過半数25名，本日の出席者41名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数 21名

報告事項
1. 執行理事会報告
1) 2020年度第12，13回執行理事会の議事内容について中澤常務理事から報告があった．主な点は以下の通り．
・地質学会が提案した日本学術会議大型研究計画マスタープラン『地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築』の進捗状況について，関連学協会に対し共同提案者または賛同者としての協力を依頼中との説明があった．
・学会各賞の賞金の見直しについて検討中との報告があった．関連学協会の状況も参考にして検討を進めている．
2) 会員動静について緒方理事から説明があり，5月以降の逝去会員2名に対して黙祷を捧げた．
2. 理事・委員会・研究委員会等報告
1) 各賞選考委員会（竹下理事）
委員間の互選により，2021年度の各賞選考委員会の委員長に西　弘嗣理事を選出した．
2) ジェンダー・ダイバーシティ委員会（中澤常務理事）
8/1に会員と理事による座談交流会：多様な視点で地質学会に物申そう！「地質分野の多様性を増やすには：持続可能で闊達な学会を目指して」をオンラインで開催予定．
3. その他
1) 行事委員会（星理事）
・日本地球化学会第68回年会（於 弘前大学orオンライン開催，9月上旬開催予定）にて，9/9または9/10に地質学会共催の特別セッションが開催予定．会期後，セッションの内容は地質学雑誌に特集号として投稿予定．
・2021年名古屋大会について説明があった．発表はe-posterの利用を強く勧める．懇親会はspatial chatまたは類似システムを利用予定．6/21に会員向け説明会をZoomで行う．
・ショートコースについて，第4回（7/18開催）は現在申し込み受付中．第5回，6回は2021年秋に開催予定．
2) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）
最近の編集状況が説明された．また，地質学雑誌完全電子化に関わる具体的な運用方法については予算案も含めて検討中．合わせて規則整備を次回9月理事会に提案予定．
3) Island Arc編集委員会（狩野理事）
最近の編集状況について説明された．最近投稿が減っているので積極的に投稿してほしい．特に特集号の提案を求めている．

審議事項
1. 各種委員会委員の選出・承認
以下の委員会委員の選出について承認された．
1) 地質技術者教育委員会に1名追加：坂口有人（山口大学）
2) 現行地質過程部会廃止に伴い，行事委員会から現行地質過程部会選出の委員を削除
3) 地学教育委員会に3名追加：松永　豪（大阪府立泉北高等学校）・渡来めぐみ（茗渓学園中学校・高等学校）・大信田彦磨（愛知県海翔高等学校）
2. その他
特になし．

監事報告
・山本監事より，竹内圭史会員からの寄付金について，用途は本人の意向を尊重し，寄付金の運用状況や結果は適宜理事会に報告してほしいとの意見があり，これに対して，中澤常務理事から，執行理事会に若手育成事業の検討チームを設置し検討を進めているとの報告があった．
・岩部監事より，今年度は執行理事会にも可能な限り出席して学会の活動状況を注視していきたいとのコメントがあった．

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2021年6月30日
理事：議長　山口飛鳥
理事：副議長　納谷友規
代表理事：会長　磯崎行雄
理事：副会長　佐々木和彦
理事：副会長　平田大二
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）

日本地質学会2021年度 第2回（臨時）理事会議事録

日時：2021年7月18日（日）17:00-17:30
【WEB会議形式】
出席者：出席理事32名，出席監事1名
・会長1名：磯崎行雄
・副会長2名：佐々木和彦・平田大二
・常務理事1名：中澤　努
・副常務理事1名：岡田　誠
・執行理事11名：ウォリス サイモン・緒方信一・亀高正男・狩野彰宏・小宮　剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森　樹・松田達生・星　博幸・矢部　淳
・理事会議長2名：納谷友規・山口飛鳥
・理事18名（議長・副議長を除く）：天野一男・安藤寿男・内野隆之・北村有迅・後藤和久・小松原純子・齋藤　眞・杉田律子・内藤一樹・奈良正和・根本直樹・藤井正博・保柳康一・矢島道子
・監事1名：岩部良子
・事務局1名：澤木寿子
欠席者：欠席理事17名
・執行理事1名：大藤　茂
・理事16名：上松（渡邉）佐知子・芦　寿一郎・尾上哲治・笠間友博・亀尾浩司・亀田純・川端清司・清川昌一・竹下　徹・西弘嗣・野田　篤・早坂康隆・細矢卓志・松田博貴・三田村宗樹・道林克禎
・監事1名：山本正司
＊議長は審議開始に際し，本日の書記として内野理事および内藤理事を指名した．
＊成立要件：理事総数49名の過半数25名，本日の出席者32名で本理事会は成立．
＊議決：出席者の過半数 17名
＊会議開催にあたり，磯崎会長より臨時理事会招集の経緯が説明された．またコロナの感染状況がさらに厳しくなっていることを受け，学会活動も含めより一層の用心が呼び掛けられた．

審議事項
1. 選挙管理委員会の設置について（中澤常務理事）
2022年度代議員・役員選挙の選挙管理委員会委員として，執行理事会より尾崎正紀会員・堤 之恭会員・飛田健二会員・永治方敬会員・藤崎　渉会員の5名が推薦され，全会一致で

承認された.

報告事項

1. 行事委員会（星理事）
・名古屋大会について，発表申し込みが約350件，3日の会期で開催予定と報告された．大会関連の追加企画として，地質学露頭紹介のイベント，若手向けにアカデミックな情報交換を行う会，ベテラン・シニア懇親会が企画されている．詳細は後日メルマガで告知.
・ショートコースについて，第4回（7/18（日））は約120名の参加申し込みがあった．第5回は10/3（日）に開催予定，第6回は11月以降を予定.
2. 地質学雑誌編集委員会（小宮理事）
・地質学雑誌の編集状況について報告された．投稿数は減少気味.
・地質学雑誌の完全電子化に伴う要検討事項について説明された．年間を通じて1号とし，論文はフリーアクセスとなる．「口絵」に代わり，「フォト」のカテゴリを新たに設ける．オープンファイルはJ-Stage Dataとして公開し，別個のDOIが付与される．著者の作業負担はこれまでとほぼ変わらない．電子化に伴い，投稿編集出版規則についても一部修正する．要検討事項については，編集委員会内でまだ議論中であり，理事からもご意見があればお知らせ頂きたい.
3. Island Arc編集委員会（狩野理事）
・掲載論文数は例年に比べ若干増加傾向にある．インパクトファクターは1.558で，昨年に比べ微減．今後，特集号の企画を期待している.
4. ジオパーク支援委員会（天野理事）
・日本ジオパーク学術支援連合(JGASU)が7/2に設立された．代表は天野理事で，連合加盟会からの各担当者らで委員を構成する.

※監事コメント（岩部監事）
地質学雑誌の電子化が，会員により多くのメリットをもたらすことを期待している.

2021年7月30日
理事：議長　山口飛鳥
理事：副議長　納谷友規
代表理事：会長　磯崎行雄
理事：副会長　佐々木和彦
理事：副会長　平田大二
監事：岩部良子
理事：出席理事名（省略）

日本地質学会2021年度 第3回理事会議事録

日時：2021年9月11日（土）13:00-15:50

【WEB会議形式】
出席者：出席理事41名，出席監事2名
・会長1名：磯崎行雄
・副会長2名：佐々木和彦・平田大二
・常務理事1名：中澤　努
・副常務理事1名：岡田　誠
・執行理事11名：大藤　茂・緒方信一・狩野彰宏・亀高正男・小宮　剛・坂口有人・高嶋礼詩・辻森　樹・星　博幸・松田達生・矢部　淳
・理事会議長1名：山口飛鳥
・理事会副議長1名：納谷友規
・理事23名（議長・副議長を除く）：上松（渡邉）佐知子・芦　寿一郎・天野一男・内野隆之・尾上哲治・亀尾浩司・亀田純・川端清司・北村有迅・清川昌一・後藤和久・小松原純子・齋藤　眞・杉田律子・竹下　徹・内藤一樹・西　弘嗣・根本直樹・野田　篤・早坂康隆・藤井正博・細矢卓志・松田博貴
・監事2名：岩部良子・山本正司
・事務局1名：澤木寿子
欠席者：欠席理事8名，欠席監事0名
・執行理事　ウォリス サイモン
・理事　安藤寿男・笠間友博・奈良正和・保柳康一・三田村宗樹・道林克禎・矢島道子
＊成立要件：理事総数49名の過半数25名 本日の出席者41名で本理事会は成立.
＊議決：出席者の過半数 21名
＊開催にあたって，上松理事および野田理事を書記に指名した.
＊磯崎会長挨拶
＊前回議事録確認

報告事項

1. 執行理事会報告
・2021年度第1回，第2回執行理事会の議事内容について中澤常務理事から説明があった．主な点は以下の通り.
・新型コロナウイルス感染拡大防止に関する学会の対応を6月21日付で学会HPに掲載した（以降，緊急事態宣言延長等に伴い随時更新済み）.
・ジオルジュの編集状況について，取材・編集作業に新型コロナウイルスの影響が出ているため，次号と次々号の作業を並行して進めている.
・地質の日イベントは6月27日に街中ジオ散歩の実行委員会会合をオンラインで実施した．今年度の実施は見送り，来年度5月の開催に向けて準備を進めている.
・ジェンダー・ダイバーシティ委員会では，8月1日に座談交流会を開催し，約40名の参加があり，活発な意見交換がなされた．また地質学会名古屋大会においてダイバーシティ認定ロゴの付与を試行的に実施した結果，7つのセッションから申し出があり付与を行った.
・竹内圭史会員からの寄付に対して学会として謝意を表すため感謝状を進呈する．また今後も10万円以上の寄付を受け取った場合には感謝状を贈呈することを申し合わせた.
・学会関連のオンライン行事が増加していることを踏まえ，個人情報を取り扱う場合には必ず「日本地質学会プライバシーポリシーに従う」と明示することを再確認した.
・今後の学術大会開催地の選定について，これまでの支部単位でのローテーションを超えて，支部や地域の希望を積極的に募ることとする.
・伊藤谷生名誉会員より寄付のお申し出を頂き，謹んで篤志をお受けした.
1) 総務委員会
・会員動静について緒方理事から説明があり，6月以降の逝去者5名に対して黙祷を捧げた.
・会計について緒方理事から説明があり，2021年1月から8月末までにご寄付頂いた方を紹介し，謝意を表した.
・会員管理システムのクラウド化進捗状況について亀高理事から説明があり，今後の予定が報告された．会員管理システムをクラウド化することでテレワークに対応すると共に，会員システムの一元化を図り事務局員の負担を軽減するため．12月から本格稼働予定である.
・J-stageのPDF保護解除について亀高理事から説明があり，既にアップロード済の1,309論文の保護解除と再アップロードに係る費用（約72万円）が報告された．事業準備引当金から支出する予定.
2) 広報委員会（坂口理事）
地質学雑誌の電子化に伴い，2022年1月からはニュース誌のみの郵送となるため，ニュース誌の内容を充実させることを検討中．「新」ニュース誌の内容改定案について，中間的な報告があった．ニュース誌の電子化・アーカイブ化を要望する意見が出され，継続して検討する旨回答があった.
3) 行事委員会（星理事）
・名古屋オンライン大会の実施報告として，顕彰・表彰式・受賞記念講演のYouTube配信を行っていること，「学生と駆け出し地質屋集合！」「Webを活用する業界サポートサービス」「ジュニアセッション」「地質学露頭紹介」「懇親会」「ベテラン・シニア懇親会」の各企画を実施したこと，また来年開催地は関東支部・早稲田LOCである旨説明があった．本大会が大きな問題なく円滑かつ盛況に開催できたことに対し，関係者および事務局に謝意が表された.
・第129年学術大会（早稲田大会）の開催概要について小松原理事から説明があった．LOC，日程，大会名，大会テーマ・キャッチフレーズ，共催・後援，会場，市民講演会，巡検，普及イベントについて説明された．これに対し，大会テーマ・キャッチフレーズについて幾つかの意見が出され，継続して検討する旨回答があった.
4) 地質学雑誌編集委員会（大藤理事）

最近の編集状況・出版状況について報告があり，原稿数が少ないため積極的に投稿してほしい旨が説明された．
5) Island Arc編集委員会（狩野理事）
最近の編集状況・出版状況，2021年IFの計算対象となる引用数データについて報告があり，特集号の企画を募集している旨が説明された．
6) 地質技術者教育委員会（佐々木理事）
地質学会が構成学会となっているJABEE地球・資源分野の運営体制について，幹事学会である資源・素材学会から変更案が提出された．変更案が提出された背景は，地質学会を含む4つの学会からなる運営委員会の位置付けや独立性が不明確などの問題があったため．今回の変更案では，各学会から委員を推薦してJABEE地球・資源分野委員会を構成し，それがJABEEとの連絡窓口になるとともに，毎年の運営状況を構成学会に報告するとしている．本変更案に対する回答内容は12月の理事会で改めて報告する．
7) 学会運営検討タスクフォース中間報告（佐々木理事）
会員数の減少を防ぎ，学会活動を活性化するための施策を執行理事会のもとにタスクフォースを設置して様々な検討を行っている．会費および大会参加費の変更に関する議論の中間報告について説明があった．主に若手とシニア層を対象とした会費・大会参加費の見直しを行うこと，これに伴い会員種別の変更について検討していること，来年度5月の総会での決議を目指すことが報告された．これに対し，会費の支払い方法の拡充（コンビニ払いなど）および年会費のパック割引等について意見が出され，引き続き検討する旨回答があった．
2. 理事・委員会・研究委員会等報告
1) ジオパーク支援委員会（天野理事）
日本ジオパーク学術支援連合会（JGASU）設立後の状況について，JGASUのウェブサイトが9月1日にオープンしたこと，8月6日に第2回日本地質学会ジオパーク支援委員会を開催し，今後の活動について討論したことが報告された．今後，連合大会のジオパークセッションをJGASUが主催する方向で検討を進める．またウェブサイトの充実，地質学雑誌における特集号の提案，露頭紹介企画の実施を目指す．
2) 地学オリンピック支援委員会（高嶋理事）
第14回日本地学オリンピックの参加申込開始および今年度の国際地学オリンピックでの日本チームの成績について報告があった．
3) 選挙管理委員会（委員長 飛田理事　代理 中澤理事）
2022年度代議員および役員選挙について詳細が報告され，日程，立候補の仕方，届け出について説明があった．これに対し，代議員の人数について意見交換があった．
3. その他
磯崎会長より，万国地質学会（IGC）2024 Busanについて説明があった．状況を韓国地質学会およびIGCに確認し，協力体制について議論を始めるところである．

審議事項
1. 各種委員会メンバーの追加補充
以下の委員会委員の追加選出について承認された．
・地学オリンピック委員会に１名追加：冨永紘平氏（筑波山地域ジオパーク推進協議会）
・地質学雑誌編集委員会に1名追加：佐藤智之氏（産総研）
2. 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項（大藤理事）
地質学雑誌電子版投稿編集出版規則の制定に関し，出版印刷費用等に関する細則3を除く部分について承認された．
3. 各賞の賞金廃止について（中澤理事）
これまで日本地質学会賞，国際賞，小澤儀明賞，柵山雅則賞，研究奨励賞に副賞として設けていた賞金について，学会の賞は優秀な業績を修めた者へ栄誉を授けることが目的であること，関連他学会の状況および本学会の財政状況に鑑み，賞金の授与を廃止することが承認された．
4. 野外地質学に関する若手育成事業について（中澤理事）
寄付金を原資とする「野外地質学に関する若手育成事業」の事業案について，1）フィールドワーク賞の設置；2）主に院生を対象としたフィールド調査助成金制度；3）学生・院生会員を対象とした学会巡検参加費の補助；4）地質調査研修の説明があった．これに対し，大学の内情を調査すること，学部生を対象とした事業の可能性について意見が出された．これらを踏まえつつ，上記の方向で実施に向けた議論を進めていくことが承認された．

監事報告
山本幹事より以下のコメントがあった．
・名古屋大会が全行程無事に終了したことを受け，関係者の皆さんに謝意を表する．
・ジオパークや地学オリンピックは地質学を身近なものにする効果があるため中高生や一般の人に向けてより広く広報活動を行った方がよい．
・大会参加費の変更に関して，財務に関する重要な案件なので，12月の理事会での検討を待ちたい．

以上

以上，この議事録が正確であることを証するため，議長及び出席監事・理事は次に記名・捺印する．

2021年10月5日
理事：議長　山口飛鳥
理事：副議長　納谷友規
代表理事：会長　磯崎行雄
理事：副会長　佐々木和彦
理事：副会長　平田大二
監事：岩部良子
監事：山本正司
理事：出席理事名（省略）

2021年度第1回
執行理事会議事録

日程：2021年7月10日（土）13:00-18:00
【WEB会議】
出席：磯崎，中澤，佐々木，松田，高嶋，矢部，辻森，星，亀高，大藤，小宮，狩野，緒方，坂口，山本（監事），岩部（監事）
欠席：平田・ウォリス・岡田
事務局　澤木
＊定足数（過半数：9）に対し，14名の出席
＊前回議事録（20-13回）の内容が確認され確定した．

報告事項
1. 全体的報告
・緊急事態宣言からまん延防止等重点措置への移行に伴い新型コロナウィルス感染拡大防止に関する学会の対応を6/21付でHPに掲載した．引き続き対面形式の学会主催行事の開催を控え，事務局は交代でテレワークを継続する．
・静岡県熱海伊豆山地区土石流についての会長コメントを発表した（7/6付学会HP掲載）
・地球全史スーパー年表（地質学会監修，2014年 岩波書店発行）の増刷が決定した．（4刷,500部，2021年8月予定）
2. 運営財政部会（緒方・亀高）
1）総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・地学オリンピック日本委員会2021年度協賛団体加入依頼があり，承諾した．
・資源地質学会第70回年会(6/30－7/2オンライン開催)の協賛依頼があり，承諾した．
・日本地球化学会第68回年会（9/1-21オンライン・弘前大学でのハイブリッド開催）への共催依頼があり，承諾した．
・令和3年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者推薦（学会締切9/3）【→geo-flash，ニュース6月号掲載】
・2021年度「朝日賞」候補者推薦依頼（8/25締切；学会締切8/2）【→geo-flash掲載】
・藤原ナチュラルヒストリー振興財団 学術研究助成（非動物分野：地学・植物）（9/1）【→geo-flash，ニュース7月号掲載】
・第43回（令和3年度）沖縄県急奨励賞推薦（学会締切9/3）【→geo-flash，ニュース7月号掲載】
・石油資源開発株式会社より，役員就任のご挨拶を頂いた（代表取締役社長：藤田昌

弘）
・株式会社パスコより役員就任のご挨拶を頂いた（代表取締役社長：島村秀樹）
・無機マテリアル学会より役員就任のご挨拶を頂いた（会長：山本岳司）
・NPO日本地質汚染審査機構より役員就任のご挨拶を頂いた（理事長：高嶋　洋）
＜会員＞
１．今月の入会者(58名)
正会員：(6名)
正（院割）会員（48名）
正（学部割）(4名)
２．今月の退会者（6名）
正会員（6名）サヤンタニ チャタルジー　伊藤忠英・小野藍生・石川正憲・尾上裕子・河原畑智朱
３．今月の逝去者(1名)
茂野忠良（逝去日：2020年9月22日）
４．2021年6月末会員数
賛助：27，名誉：40，正会員：3238［正：3171，院割：64，学部割：3］合計3305（昨年比-138）
＜会計＞
・自然史学会連合2021年度分分担金（2万円/年）を納入した.
・土質・地質技術者生涯学習協議会（ジオスクーリングネット）（8万円/年）を納入した.
・地学オリンピック日本委員会2021年度協賛金20万円（1口5万円，4口）を予算通り送金した.
＜その他＞
・クラウド化進捗報告：クラウドサービスの導入コストを選挙等のオプション費も含めて，買い取り，レンタルのケースに分けて5年分の中期的コストを2社比較した．現状のシステムの保守管理コストよりも安くなるケースもある．使いやすさ，セキュリティ，コストを考慮し，実際に試用してみて来月以降に提案する.
3. 広報部会（坂口・小宮）
1. 広報委員会（坂口）
・ジオルジュ編集会議を7/6に行った．コロナ感染状況により取材，編集作業に影響が出ている．次号と次々号の取材を平行して進める.
・Q&A 1件，TV番組からの質問1件が寄せられ，順次対応中.
・Q&Aの運用に関して課題が顕在化してきたので，広報委員会で議論して小宮理事から修正案を提案する.
４．学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1. 行事委員会（星）
・2021名古屋大会について
1. 演題登録を6/30に締め切った．申込数338件（口頭183件，ポスター－155件．例年は550-600件）．現在世話人によるプログラム編成(7/9締切)，要旨校閲作業中（7/16締切）.
セッションは朝8時から開始なので周知徹底する.
2. 誌面ブース：18機関より申込があった．賛助会員に対して無料掲載の追加案内を行う.
3. 業界研究サポート：オンライン式で関連企業と学生の情報交換を行う．関連企業20社が参加し，大学77校87学科に周知する.
4. ジュニアセッション：参加募集中（8/2締切）
5. その他：地質情報展（10/8－10），市民講演会など現地開催イベントはコロナの状況に応じて対応する.
・第4回ショートコース：参加申込を7/5に締め切った．受講申込者数72．特に学生・若手研究者の参加を増やすために追加募集を行うこととし，geo-Flash臨時号を出して案内する.
・第5回ショートコース：講師2名決定．10月3日（日）開催予定.今後宣伝していく.
2. 専門部会連絡委員会（辻森）
特になし
3. 国際交流委員会（ウォリス）
特になし
4. 地質標準化委員会（辻森）
・地質年代表の日本語表記について誤記があるので，慎重に確認の上修正予定.
５．編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
(1）編集状況報告（7月9日現在）
・2021年投稿論文：24［内訳］論説12（和文11，英文1），総説1（和文1），レター３（和文3），報告2（和文2），ノート3（和文3），口絵3（和文2，英文1）
査読中：29，受理済み：10（うち特集号5）
・127巻6月号：名古屋巡検案内書3，通常号論説1，レター１，報告1（65頁，校正中）
・127巻7月号：特集「日本海拡大に関連したテクトニクス，堆積作用，マグマ活動，古環境」総説1，論説3，レター１，通常号レター１（55頁，入稿中）
(2）雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項（→審議事項へ）
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
・投稿状況が報告された．今号出版済み32編．編集中（受理済み込み）7編．例年よりやや順調.
・ISI Journal Citation Reports Ranking:2020:160/199（Geosciences Multidisciplinary）, IF:1.558
・国内外他雑誌とのIF比較が紹介された.
3）企画出版委員会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1. 地学教育委員会（高嶋）
・名古屋大会ジュニアセッション参加校募集中：6/23に過去の参加校，愛知県内の高等学校，名古屋市周辺の中学校等へ参加案内を発送した（8/2締切）
2）地質技術者教育委員会（佐々木）
・名古屋大会オンライン企業訪問企画について
・JABEE地球・資源分野運営委員会報告：2020年度審査は，継続審査が3校（2021年10月頃実地審査予定），2021年度審査は，予備審査1 校（上記），中間審査1校，継続審査1校，予備審査は2021年度中に行う．中間と継続審査の実地審査は2022年10月頃の予定.
・地球資源分野運営体制：新体制の任意団体に移行する．構成各学会から運営委員を推薦する．新組織もJABEEからの審査料と繰越金で運営される.
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし
4. 地震火山地質こどもサマースクール（松田）
特になし
5）地質の日（矢部）
・街中ジオ散歩：6/27に街中ジオ散歩の実行委員会会合をオンラインで実施した．秋に実施を計画しいたが，新型コロナウィルス感染症の状況を踏まえて中止する．来年度5月の開催に向けて準備を進めるが，当初計画のあった横浜だけでなく，千葉での実施も検討していく．12月に開催の可否を判断する.
7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1. ジオパーク支援委員会（委員長天野：代理平田）
・7月2日に日本ジオパーク学術支援連合設立総会が開催され，日本ジオパーク学術支援連合（JGASU:ジェイガス）が設立された．(代表 天野一男：日本地質学会，副代表　青木賢人：日本地形学連合).
2. 地学オリンピック支援委員会（高嶋）
出題者を学会より推薦し，決定された.
3. 支部長連絡会議（平田）
特になし
4. 地質災害委員会（松田）
・防災学術連携体関係の以下の研究会に参加（参加予定）：
7月7日開催　第8回Web研究会　地理情報システム学会　テーマ:「防災・減災支援における地理情報システムの可能性」中澤参加
8月3日開催予定　第3回「防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会」テーマ：「激化する気象災害への備え」松田参加予定
5. 名誉会員推薦委員会（佐々木）
特になし
6. 各賞選考委員会（中澤）
特になし
7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会（委員長 堀　利栄）
・座談交流会「地質分野の多様性を増やすには：持続可能で闊達な学会を目指して」を8月1日に開催する．Geo-Flash定期号で周知する.
・名古屋大会でのダイバーシティ認定ロゴ試行のため，各セッション世話人に対し，主旨とロゴデザインの連絡を行い，大会での周知協力を依頼した．今回は試行である

ため，ロゴは単一化し，付与の認定基準を緩和する方向で調整することになった．

8) 法務委員会（委員長　松田博貴；代理 中澤）

・地質学雑誌掲載論文中の引用表記について，会員から指摘があり，127巻7号で訂正記事掲載を対応中．

9) 連携事業委員会（中澤）

特になし

9. 研究委員会

1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長 吉田英一）

特になし

2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）

特になし

Ⅰ　審議事項

1. 選挙管理委員会メンバーの選任

各分野から5名の候補者を検討した．理事会に提案する．

2. 文部科学大臣表彰 科学技術賞（理解増進部門）

推薦依頼（1件）があり検討の結果，推薦することとした．

3. 雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項

大藤編集委員長より電子化に関して，口絵，特集号，巡検案内書，連載講座，会員限定公開と早期公開，ページ数制限，オープンファイル，データ共有ポリシー，別刷，カラー料金，ページ超過金，オンデマンド印刷などの取り扱いについて編集委員会での検討内容が報告された．これに合わせて出版規則および各細則の改定案が提案された．9月の理事会への提案を目指して詳細を詰める．また電子化に合わせてカラー料金不要のメリットを活かした和文ならではの「紹介解説」などの新カテゴリも編集委員会に検討してもらうこととした．電子媒体の閲覧が難しい会員のためのオンデマンド印刷対応は料金シミュレーションを行って具体的な実施プランを提案予定．

4. 竹内圭史会員への感謝状贈呈について

竹内会員からの寄付に対して学会として謝意を表すこととする．今後のためにも寄付者に対する感謝状について内規を定めて運用する．

5. 野外地質学に関する若手育成事業について

寄付金を原資とした若手育成事業の検討チーム（磯崎，亀高，星，矢部，中澤）を立ち上げ，事業案の検討進めている．新賞の設立や助成金制度など4つの原案が紹介された．引き続き具体的な検討を進め理事会に提案する．

6. フィールドマスター認定制度について

若手育成事業に関連して2018年のフィールドマスター認定制度WGで検討された内容が報告された．検討当時から時間が経っていることから，本件は地質技術者教育委員会で引き取って継続審議することとした．

7. 各賞の賞金廃止の是非について

学会各賞の顕彰と賞金のあり方について関連他学会の状況も比較して議論した．一部賞の賞金廃止の方向で，9月の理事会での提案を目指して継続審議とする．

8. 名古屋大会ポスター賞の選考方法について

オンライン大会のためe-poster形式となる．その場合，従来のポスターと表現方法が大きく異なるため，優秀ポスター賞の選考方法や選考基準を変更する必要があるか議論された．表現方法は変わってもポスター発表の評価ポイントは変わらないので，例年通りの選考を行うこととする．また，ジュニアセッションの選考方法とも齟齬がないようにする．

9. 学術大会の追加企画案

オンライン大会の特性を活かした新規企画案が議論された．(1) 地質学露頭紹介，(2) 学生と駆け出し地質屋集合！アカデミックな情報交換を楽しむ会，(3) ベテラン・シニア懇親会，(4) 支部同窓会．行事委員会で具体化してもらうこととした．

10. 個人情報の取り扱い

オンライン行事が増え，イベントの申込などを行う機会が増えたこともあり，学会活動の中で，個人情報を収集，取り扱う場合には必ず「日本地質学会プライバシーポリシーに従う」と明示することを再確認した．

11. 2021年度第2回（臨時）理事会の議事および資料の確認

選挙管理委員会の設置/名古屋大会の準備状況報告/地質学雑誌の電子化準備状況報告/Island Arc編集報告ほか

12. 今後の学術大会開催地の選定について

大会開催地については，これまでの支部単位でのローテーションを超えて，支部や地域の希望を積極的に募ることとする．

以上

2021年8月1日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

2021年度第2回
執行理事会議事録

日程：2021年8月1日（日）13:00-17:30
【WEB会議】

出席：磯崎，中澤，佐々木，松田，高嶋，矢部，辻森，星，亀高，大藤，小宮，坂口，平田・ウォリス，岡田，岩部（監事）

欠席：緒方，狩野

事務局　澤木

＊定足数（過半数：9）に対し，15名の出席

＊前回議事録（21-1回）の内容が確認され確定した．

報告事項

1. 全体的報告

・学会運営検討タスクフォース会合を開催し，シニア世代と若手（学生・院生）の年会費や大会参加費について，また地質学雑誌電子化に関わる運用や規則改正などについて議論した．年会費などの重要事項については来年総会での決議を目標にして議論を進める．

2. 運営財政部会（緒方・亀高）

1. 総務委員会

＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞

・大日本コンサルタント株式会社，株式会社ダイヤコンサルタントより完全親会社DNホールディングス株式会社設立のご挨拶があった．

・令和3年度宮崎県教育委員会学芸員採用選考試験実施の案内【→geo-flash，ニュース7月号掲載】

＜会員＞

1．今月の入会者(1名)
　正（学部割）会員：清水光希

2．今月の退会者（2名）
　正会員（2名）：徳間正一・飯塚亮太

3．今月の逝去者(1名)
　正会員(1名)：仲　二郎（逝去日：2021年1月20日）

4．2021年7月末会員数

賛助：27，名誉：40，正会員：3234［内訳正会員：3167，院割：64，学部割：3］合計3301（昨年比-138）

＜会計＞

・防災学術連携体2021年度会費（3万円）を納入した．

＜その他＞

・伊藤谷生名誉会員より寄付（12万円）のお申し出をいただき，謹んで篤志をお受けした．

・会員管理システムのクラウド化について，進捗状況の報告があった．

3. 広報部会（坂口・小宮）

1. 広報委員会（坂口）

・英語HPの受賞者情報を更新するため，受賞対象テーマ等の受賞者の英訳情報を確認，収集中．

・ニュース誌大会プログラム記事の編集作業が遅れたため，冊子発行（発送）に1週間程度の遅延が生じる見込み．

4. 学術研究部会（辻森・ウォリス・星）

1. 行事委員会（星）

・2021名古屋大会について

1. 追加イベント（① 学生と駆け出し地質屋集合！ アカデミックな情報交換を楽しむ会/② 地質学露頭紹介/③ ベテラン・シニア懇親会）を実施する．①②は要申込．大会サイトから申込受付中（8/19締切）．

2. 懇親会懇親会や打ち合わせ等に利用するため，同様の他ツールと比べ契約料が安い仮想空間ツール「oVice」（オヴィス）を導入する．

・第4回ショートコース：受講申込者数120名

（実受講者数111名）.
・第5回ショートコース：8月下旬より申込受付開始.
2. 専門部会連絡委員会（辻森）
特になし
3. 国際交流委員会（ウォリス）
・IGC 2024 BusanのHPに日本国内巡検コースが表示されているが，決まっているわけではない．未定であることを韓国地質学会やIGCに確認をとる.
4. 地質標準化委員会（辻森）
特になし
5. 編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
（1）編集状況報告（7月30日現在）
・2021年投稿論文：25［内訳］論説13（和文12，英文1），総説1（和文1），レター３（和文3），報告2（和文2），ノート3（和文3），口絵3（和文2，英文1）
査読中：28，受理済み：12（うち特集号5）
・127巻7月号：特集「日本海拡大に関連したテクトニクス，堆積作用，マグマ活動，古環境」総説1，論説3，レター1，通常号レター１（55頁，校了）
・127巻8月号　通常号　論説2，レター1，報告2（入稿準備中）
・現在査読中のものの一部が電子化後の出版になりそうである
（2）雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項（→審議事項へ）
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
直近の投稿状況などが報告された
3）企画出版委員会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1. 地学教育委員会（高嶋）
・名古屋大会ジュニアセッション参加校募集中．応募数8（8/1現在）．8/2締切予定．申し込みが少ないため，締切を延長して対応する.
2）地質技術者教育委員会（佐々木）
・7月26日に2021年度第3回委員会を開催した.
・JABEE地球・資源分野運営体制の変更について：分野の幹事学会である資源・素材学会から，構成4学会による独立した運営組織に変更したい旨の提案があった
・委員会のHPの修正
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし
4. 地震火山地質こどもサマースクール（松田）
・来年に延期した浅間大会の現地調査を8月17日に実施し，来年もハイブリッド（現地+リモート）になった際の動画コンテンツ作成等の検討を行う.
5）地質の日（矢部）
特になし
7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1. ジオパーク支援委員会（委員長天野：代理平田）
コンソーシアムの運営について各学会からの意見を集約中.
2. 地学オリンピック支援委員会（高嶋）
特になし
3. 支部長連絡会議（平田）
特になし
4. 地質災害委員会（松田）
・8月3日開催の防災学術連携体主催のシンポジウム「激化する気象災害への備え」に松田が参加する.
・8月6日開催の防災学術連携体総会に中澤常務理事が出席する.
5. 名誉会員推薦委員会（佐々木）
特になし
6. 各賞選考委員会（中澤）
特になし
7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会（委員長 堀　利栄）
8/1にワークショップを開催した．約40名参加．若手会員から学会への要望などについても活発な意見交換があった.
8)法務委員会（委員長　松田博貴；代理 中澤）
　特になし
9)連携事業委員会（中澤）
特になし
9. 研究委員会
1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長吉田英一）
特になし
2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）
特になし
その他
・若手チームによるSNS広報を，学会オフィシャルチャンネルと並行して実施

Ⅰ　審議事項

1. 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と下記検討結果を取りまとめ，次回9月理事会に諮る.
・口絵(Pictorial)をフォト(Photos)に改める
・オープンファイルをJ-Stage Dataのデータファイルとして公開する　搭載は外注（年額3-6万円程度）
・現行規則での出版序は受付順だが，受理順に改める
・特集号は，全ての論文が公開された後にVirtual Issueとしてまとめる
・別刷りを有償オプションとして残す
・電子版であっても現行規則通りページ制限を設ける（超過分には負担金）
・オンデマンド印刷は3年間（程度）移行措置として印刷費・送料実費負担で残す
・過去論文を含め公開論文PDFの保護を外す方向であることを会員に周知
2. 各賞の賞金廃止の是非について議論した．各賞は栄誉を授けることが目的であること，また学会の財政状況及び他学会の表彰状況も鑑みて賞金は廃止する方針を理事会に諮る.

以上

2021年8月28日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

2021年度第3回
執行理事会議事録

日程：2021年8月28日（土）13:00-18:30
【WEB会議】
出席：磯崎，中澤，佐々木，松田，高嶋，矢部，辻森，星，亀高，大藤，小宮，坂口，平田，ウォリス，岡田，緒方，狩野，岩部（監事）
欠席：
事務局　澤木
＊定足数（過半数：9）に対し，17名の出席
＊前回議事録（21-2回）の内容が確認され確定した.

報告事項

1. 全体的報告
・学会運営検討タスクフォース中間報告（会員種別、会費、大会参加費の変更について）：9月理事会で中間報告・意見聴取、12月理事会で承認、次年度総会で決定を目指す.
・地質学雑誌電子化による2022年度以降の会計収支効果の想定：電子化による支出減と収入減の相殺で年間約180万円の減額効果となる．9月理事会で報告予定.
・山田科学振興財団2021年度研究援助（地質学会推薦1件）については，不採択の通知があった.
2. 運営財政部会（緒方・亀高）
1. 総務委員会
＜共催・後援依頼，他団体の募集等＞
・第31回社会地質学シンポジウム（１１/26－27開催）への後援依頼があり，承諾した.【→geo-flash，ニュース9号掲載】なお，「環境地質学シンポジウム」の名称を30年の節目を契機に「社会地質学シンポジウム」に変更するとのこと
＜会員＞
1. 今月の入会者(7名)
正会員：里和玲伊　畑中孝明　山本眞之助
正会員（院生割）：柴田翔平　金田泰明　小山雪之丞　伊藤泰輔
2. 今月の退会者（2名）
　正会員（2名）佐志啓未　大西　澪
3. 今月の逝去者(なし)
4. 2021年7月末会員数（前回報告済み）
賛助：27，名誉：40，正会員：3234［内訳

正会員：3167，院割：64，学部割：3］合計3301（昨年比-138）
＜会計＞
・ワイリーより2020年分の印税の入金があった(2,000,796円).
・宝島社より「やばすぎ! 古生物図鑑 第2刷」の印税の入金があった（167,860円）.
＜その他＞
・クラウド化進捗状況について，8/10 ウェッジソフトウェア(株)（WS社）との打合せ結果について報告があった．会費納入は次年度から、選挙は次々回からの運用を予定している．現行システムとの比較を9月理事会で報告予定.
3. 広報部会（坂口・小宮）
1. 広報委員会（坂口）
・名古屋大会プレスリリースを予定（8/30投げ込み予定）
・JICAから関係大学等にJICA事業に関わったアフガニスタン人（留学生、研修員など）の個人が特定される可能性が高い英語コンテンツについて、非表示/削除の依頼があった．ニュース誌，HP掲載の活動報告等記事で該当するものはない.
・「新」ニュース誌プランを検討中（→審議事項へ）
4．学術研究部会（辻森・ウォリス・星）
1. 行事委員会（星）
・2021名古屋大会：
・大会参加登録者数（8/19締切）：601名（会員551/非会員50），講演予定数：353件（口頭182/ポスター171）
・新型コロナウイルス感染状況を受け、予定していた日程(10/8-10)での開催を中止となった．今後の開催については日時・方法を検討中.
・シンポジウムは名古屋大学会場を公開予定であったが、完全オンラインで対応することになった.
・第5回ショートコース：申込受付を開始した(9/21締切).
2. 専門部会連絡委員会（辻森）
特になし
3. 国際交流委員会（ウォリス）
・2024年韓国開催予定のIGC37関係の巡検とその協力体制について：基本合意の確認も含めて，巡検コースについて韓国側と早期に打ち合わせる必要がある.
4. 地質標準化委員会（辻森）
特になし
5．編集出版部会（大藤・狩野）
1）地質学雑誌編集委員会(大藤)
（1）編集状況報告（8月15日現在）
・2021 年投稿論文：26［内訳］論説14（和文13，英文1），総説1（和文1），レター3（和文3），報告2（和文2），ノート3（和文3），口絵3（和文2，英文1）査読中：22，受理済み：9（うち特集号5）
・127巻8月号　通常号　論説2，レター1，報告2（計56頁，校了済）
・127巻9月号　入稿準備中
（2）地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項
・9月理事会で承認内容の確認（一部細則は12月理事会での承認を目指す）
2）アイランドアーク編集委員会(狩野)
・編集状況の報告があった．投稿数が減少している.
3）企画出版委員会（小宮）
特になし
6. 社会貢献部会（松田・矢部・高嶋）
1. 地学教育委員会（高嶋）
・名古屋大会ジュニアセッション参加校．応募数15で締め切った．E-posterの審査を理事へ依頼予定.
2）地質技術者教育委員会（佐々木）【報告資料04】
8月17日に第4回委員会を開催し，以下について検討した.
・JABEE地球・資源分野運営体制変更案について
・業界サポート研究について
・フィールドマスター制度について
3）生涯教育委員会（矢部）
特になし
4. 地震火山地質こどもサマースクール（松田）
・8月16-17日に現地（浅間山）中継テストと今後の打合せを実施した。来年の実施内容については、来年3月に判断する。2年連続で実施が見合わされているが，準備・運営に関わる支出は発生しているため，学会からも拠出金を出している．今年度の会計報告もきちんと確認すること.
5）地質の日（矢部）
特になし
7. その他執行理事会の下に設置される委員会
1）利益相反マネージメント委員会（中澤）
特になし
8. 理事会の下に設置される委員会
1. ジオパーク支援委員会（委員長天野：代理平田）
・8/6に委員会を開催し，7/2日本ジオパーク学術支援連合会（JGASU）設立総会の内容が報告された．JpGUジオパークレギュラーセッションは今後JGASUの主要事業として進めることなどが議論されている.
2. 地学オリンピック支援委員会（高嶋）
特になし
3. 支部長連絡会議（平田）
特になし
4. 地質災害委員会（松田）
・8/3防災学術連携体主催のシンポジウム「激化する気象災害への備え」参加報告（松田）.
・8/6開催の防災学術連携体総会参加報告（中澤）
・11/6-7に開催予定の第6回防災推進国民大会（ぼうさいこくたい2021）に、防災学術連携体からも日本学術会議と共同で出展予定（応募済）。今回は特に人文社会系の学協会からの多くの発表を期待している。
5. 名誉会員推薦委員会（佐々木）
・委員構成を12月理事会で承認予定.
6. 各賞選考委員会（中澤）
特になし
7. ジェンダー・ダイバーシティ委員会（委員長 堀　利栄）
・日本地質学会第128年学術大会（名古屋大会）でのダイバーシティ認定ロゴ導入を試験的に導入する．ロゴ付与希望の申し出のあった該当セッション，講演に対して，ロゴを付与した.
・男女共同参画学協会連絡会へのオブザーバー参加が承認された．12/13運営委員会で新規加盟学協会として地質学会を代表して磯崎会長が挨拶を行う.
8)法務委員会（委員長　松田博貴；代理 中澤）
特になし
9)連携事業委員会（中澤）
特になし
9. 研究委員会
1）地質環境長期安定性研究委員会（委員長吉田英一）
特になし
2）南極地質研究委員会（委員長　小山内康人）
特になし

Ⅰ　審議事項

1.『日本列島地質総覧―日本列島の地史・地質環境・災害―』（仮）（産総研監修，朝倉書店）への編集協力依頼について
内容を精査して返答するとことして継続審議とする.
2.「新」ニュース誌プラン
広報委員会からニュース誌の魅力アップのためにコンテンツ案が示された．カラー化,PDF版のアーカイブ化なども合わせて検討することとして，継続審議とした.
3. 地質学雑誌のJ-STAGE公開PDFのセキュリティ解除について
地質学雑誌掲載論文（学術データ）の適切な利用を促進するためにJ-STAGE公開PDFの保護を解除する．過去のJ-Stageにアーカイブされている論文についても解除作業を進める．業者に費用と納期を問い合わせる.
4. 2022年度代議員および役員選挙について
選挙に向けて，告示文書，スケジュールが提案され，承認された．正副会長の会員の意向調査の実施を12月の理事会に諮る.
5. 理事会審議事項の確認
9月の理事会に下記の審議事項が提案され，承認された.
1. 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項
2. 地質学雑誌編集委員会のメンバー補充
3. 各賞の賞金の廃止について
4. 野外地質学に関する若手育成事業について

以上

2021年9月11日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

2021年度第4回
執行理事会議事録

日程：2021年9月11日（土）10:00-12:00
【WEB会議】
出席：磯崎，中澤，佐々木，松田，高嶋，矢部，辻森，星，亀高，大藤，坂口，平田，岡田，緒方，狩野
欠席：ウォリス，小宮
事務局　澤木
＊定足数（過半数：9）に対し，15名の出席
＊前回議事録（21-3回）の内容が確認され確定した.

報告事項
1. 総務委員会
＜会員＞（緒方）
1) 今月の入会者　なし
2) 今月の退会者（1名）
正会員（1名）白波瀬輝夫
3) 今月の逝去者　なし
4) 2021年8月末会員数
賛助：27，名誉：40，正会員：3289［内訳正：3170，院割：111，学部割：8］合計3356（昨年比-79）
＜会計＞
・2021年1月から8月末までにご寄付いただいた方（50音順，敬称略）：磯崎行雄，伊藤谷生，竹内圭史，橋目敏行，山路　敦．なお，使途明記の寄付金は理事会での報告・承認が必要のため，理事会でその旨説明する．今回該当する方々は全て報告・承認済み.
2. その他
・IGC2024(釜山)の国際協力体制について，基本合意の確認も含めて，巡検コースについて韓国側と早期に打ち合わせを進める．近日WEB会合開催予定（ウォリス理事出席予定）.
・ジェンダーダイバーシティー委員会主催の座談交流会報告．近日ニュース誌に報告記事掲載予定.
・学会の表彰体系変更の要点を賞募集時にニュース誌で説明する．また，特に個人名がついた賞については，どのような主旨の賞であるか対外的に学会HP等で説明する方が良いとの意見があり，対応することとした.

審議事項
1.『日本列島地質総覧―日本列島の地史・地質環境・災害―』（仮）（産総研監修，朝倉書店）への編集協力依頼について
必要な文献の引用がなされていない部分が散見されるなどの問題を解消するよう朝倉書店へ伝えることとした．継続審議.
2. 理事会審議事項の確認
下記の審議事項と関連資料を確認した.
1) 各種委員会メンバーの追加補充
2) 地質学雑誌電子化に関わる規則改正と検討事項
3) 各賞の賞金廃止について
4) 野外地質学に関する若手育成事業について

以上

2021年10月9日
一般社団法人日本地質学会執行理事会
会長（代表理事）磯崎行雄
署名人　執行理事　中澤　努

表紙紹介

第12回惑星地球フォトコンテスト：ジオ鉄賞
古の海洋堆積物から見上げて

写真：**藤岡比呂志**（岐阜県）

撮影場所：岐阜県長良川鉄道　美並苅安駅～赤池駅（下り赤池駅の20秒ほど手前で撮影）

撮影者より：長良川鉄道は下りの場合，湯の洞温泉口駅～徳永駅の約50分間は長良川沿いを通り，露頭を見ながら，地質に関わりながらの旅となります．付加体堆積物である美濃帯堆積岩類の中を主に走り，写真の場所はメランジュからなり，チャート層と泥岩基質の混在岩が見られます．すみきった快晴の中，はるか昔に堆積した海洋堆積物から列車を見上げているという時間のひとこまを切り取ってみました.

講評・解説：岐阜県の美濃太田駅（美濃加茂市）と北濃駅（郡上市）を72.1kmで結ぶ長良川鉄道．美濃帯のダイナミックな付加体構造をほぼ南北に縦断しながら走ります．撮影された第３長良川橋梁の架かる区間は1928年（昭和3）に開通しました．作品では露岩の質感を手前に大きく見せ，それを昭和初期のプラットトラス1連が引き立てています．角度が異なる背後の道路橋もアクセントに．新緑に映えるロイヤルレッドの車体は，クラウドファンディングと地元の支援を経て2018春にデビューした観光列車ながら3号「川風号」．ながら1号「森号」，2号「鮎号」と共に地元素材を満載した水戸岡鋭治氏デザインの車両として人気です．ジオの存在感，そして，鉄道があって初めて生まれるジオ鉄の風景，その両方の魅力を知る撮影者の思いが伝わる写真でした.（藤田勝代：深田研ジオ鉄普及委員会）

（金融機関用）　　令和　　年　　月　　日

預金口座振替依頼書
自動払込利用申込書（収加）

私は、SMBCファイナンスサービス株式会社から請求された金額を私名義の下記預金口座から預金口座振替によって支払うこととしたいので、預金口座振替規定を確約のうえ依頼します。

収納代行会社	SMBCファイナンスサービス株式会社	振替日	6日・23日（金融機関休業日の場合は翌営業日）

（フリガナ） 申込人名		申込人住所	〒 ☎

ゆうちょ銀行以外の銀行またはゆうちょ銀行のどちらか一方に記入して下さい。

捨印
ゆうちょ銀行を除く

ゆうちょ銀行以外の銀行

金融機関コード		支店コード		預金種目（どちらかに○印）	口座番号（右詰めでご記入ください。）
銀行 信用金庫 組合		本店 支店 出張所		1. 普通 2. 当座	
（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。			金融機関お届け印	印

ゆうちょ銀行

（フリガナ） 口座名義人	法人の場合は、ゆうちょ銀行へお届けの社名、代表者 役名、氏名を省略せずご記入ください。	ゆうちょ銀行お届け印	印

種目コード	契約種別コード	通帳記号		通帳番号（右詰めでご記入ください。）
1 6 6	3 0	1 0	の	

払込先口座番号	00110－5－58830	払込先加入者名	SMBCファイナンスサービス株式会社

ご注意！
金融機関へのお届け印ですか

〈収納企業使用欄〉

収納企業名	一般社団法人 日本地質学会	料金等の種類	会費等
契約者番号	委託者コード 1 8 4 7 6 0 0 0	顧客コード 0 0 0 0 0	

－預金口座振替規定－　※ゆうちょ銀行払いは除く。

1. 銀行（金庫・組合）に請求書が送付されたときは、私に通知することなく、請求書記載金額を預金口座から引落しのうえ支払ってください。この場合、預金規定または当座勘定規定にかかわらず、預金通帳、同払戻請求書の提出または小切手の提出はしません。
2. 振替日において請求書記載金額が預金口座から払戻すことのできる金額（当座貸越を利用できる範囲内の金額を含む。）をこえるときは、私に通知することなく、請求書を返却してもさしつかえありません。
3. この契約を解約するときは、私から銀行（金庫・組合）に書面により届出ます。尚、この届出がないまま長期間にわたり会社から請求がない等相当の事由があるときは、特に申出をしない限り、銀行（金庫・組合）はこの契約が終了したものとして取扱ってさしつかえありません。
4. この預金口座振替についてかりに紛議が生じても、銀行（金庫・組合）の責めによる場合を除き、銀行（金庫・組合）には迷惑をかけません。

ゆうちょ銀行をご指定の場合は自動払込み規定が適用されます。

金融機関使用欄

（不備返却事由）
1. 預金（貯金）取引なし　3. 印鑑相違
2. 記載事項等相違
　店名、預金種目、口座番号、
　通帳記号、通帳番号、口座名義
4. その他（　　）

備考

検印	印鑑照合	受付印	

取扱店日券印

（金融機関へのお願い）
この預金口座振替依頼書・自動払込利用申込書に不備がありましたら、不備返却事由欄の該当項目に○印をつけて速やかに右記不備返却先へご返送ください。

（不備返却先）
SMBCファイナンスサービス㈱決済ビジネス事務部
〒108-6350 東京都港区三田3-5-27 ☎03-5444-1533

◎書類の流れ　お客様→収納企業→SMBCファイナンスサービス→金融機関

裏面のりしろ①

キリトリ線

のりしろ①

84円
切手
貼付

101-0032

東京都千代田区岩本町
二丁目八―一五　井桁ビル内
一般社団法人 日本地質学会
御中

オリ線

住所
氏名

オリ線

のりしろ③

のりしろ②

キリトリ線

裏面のりしろ②

裏面のりしろ③

一般社団法人日本地質学会倫理綱領

2003 年 9 月 19 日　日本地質学会総会制定
2009 年 12 月 5 日　一般社団法人日本地質学会制定 *

日本地質学会の会員は，科学的真理を明らかにする事を目的として，誠実かつ真摯に地質学および関連科学の研究・教育および調査を行う．その成果を広く社会に公表することにより地質学および関連科学の進歩普及を図り，もって社会の発展と人類の福祉に貢献する．会員は，基本的人権を守り，良識かつ品位のある行動をとる．

1. 科学者としての倫理：会員は，専門知識の向上および地質学と関連科学の発展を目指して自己研磨を図る．研究と調査においては，法を尊守し，社会的良識に従って行動する．科学的事実に対しては常に謙虚，誠実でなくてはならない．研究成果と技術上の知見を広く社会に公表し，公表にあたっては先人と他者の業績を尊重する．

2. 知的交流の確保：会員は，国際交流や他分野との交流を進めることを通して学術の向上を図るとともに，研究成果と技術上の知見が科学的に広く吟味・検証されるよう努める．

3. 人類と社会への責務：会員は，その専門知識と技術を適切に活用し，研究と調査の成果を広く社会に提供することを通して社会の発展と人類の福祉に貢献する．

4. 地球環境への責務：会員は，地球システムの諸現象についての専門家として，地質災害の予知と防止，地球環境の将来予測，資源の適正な活用に関する情報を提供するとともに，専門知識を活かして環境の保全と改善に努める．自らの研究と調査の実施にあたっては環境への影響を最小限にするよう配慮する．

5. 次世代への責務：会員は，地質学と関連科学における学術と技術の継承と発展，次世代を支える人材の育成を図る．研究や調査の成果物，重要な露頭や標本などの科学的遺産の保全に努める．

*2009 年 12 月 5 日法人理事会において，一般社団法人日本地質学会倫理綱領として全文引継を決定．

GEOLOGICAL SOCIETY OF JAPAN
日本地質学会

©一般社団法人日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp